令和３年度事務事業評価調書

（１次評価調書）

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	びほろの活力共創事業			課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
				評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費	
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	01	総務管理費	
	施策(中)	０２　まちづくり活動の促進		目	08	住民活動推進費	
	施策(小)	０３　まちづくり活動への反映を意識した研修の実施		大事業	01	住民活動推進事業	
事業期間	終期未定						
要求区分	新規		町長重点政策	－			
根拠法令等	びほろの活力共創事業補助金交付要綱			経費区分	政策的経費		
事業概要	地域課題の解決や地域の活性化に向けて、町民団体が企画・実施する事業に対し補助金を交付し、活力ある地域社会の実現、地域コミュニティの活性化を図る。						
事業目的	地域コミュニティ活性化や活力ある地域社会をめざす						
事業の対象	自治会、ＮＰＯ法人、その他３人以上の町民団体						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 団体等から提案があった事業について、審査委員会の審査を経て補助金を交付する。 【現状と課題】 申請件数が増え、補助認定事業の件数が増加した。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	77	2,000	1,267	3,900	3,900
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	77	2,000	1,267	3,900	3,900
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	77	2,000	1,267	3,900	3,900

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	補助交付件数	目標	件	4	4	4	9	9
		実績	件	0	1	4		
		達成率	%	0	25	125		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	団体等から提案される事業計画等について、広く町民に還元され波及効果もある事業を審査会で審査しており妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	地域問題の解決、地域活性化のための事業活動であり、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	事業後の効果については再度検証な必要な場合もあり。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 補助の周知を図り、対象事業に対し補助金を支出			改善
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 申請件数の増加を見込み予算額を増額	予算反映額（概　算）	1,900千円	
今後の改善点	補助のＰＲ周知を図りながら、制度活用を広めていく。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	児童生徒国内外研修交流事業		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
			評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	01	総務管理費
	施策(中)	０２　まちづくり活動の促進		目	08	住民活動推進費
	施策(小)	０３　まちづくり活動への反映を意識した研修の実施		大事業	01	住民活動推進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		町長重点政策	ー		
根拠法令等	美幌町ふるさとづくり事業の推進に関する規則　美幌町児童生徒国内外研修交流		経費区分	政策的経費		
事業概要	次世代を担う児童・生徒の国際感覚や広い視野を養うため、町民団体等が自ら企画・実施をする国内外研修交流事業に要する経費の一部を支援する。					
事業目的	研修を通じて国際的視野を養い、将来のまちづくりを担うことに期待					
事業の対象	小・中・高校生					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 新型コロナウイルスの影響により、事業を実施できていない。 【現状と課題】 応募がここ数年ない状況で制度が生かされていない。					
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	新型コロナウイルスの影響により、町民団体が企画・実施する研修交流事業が未実施。	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	600	0	600	600
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	600	0	600	600
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	600	0	600	600

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	国内外研修者数	目標				5	5	5
		実績				0		
		達成率	%			0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	効果的な制度となるよう見直しが必要
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	効果的な制度となるよう見直しが必要
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	効果的な制度となるよう見直しが必要

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 事業の見直しが必要。コロナ禍で慎重に事業再開を検討する必要がある。状況を注視し、事業を再開する。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 状況を注視した事業再開を見込み、予算額を維持。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	コロナ禍により事業再開を慎重に検討する必要がある。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	コミュニティ活動促進事業		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
			評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	01	総務管理費
	施策(中)	０３　コミュニティ活動の促進		目	08	住民活動推進費
	施策(小)	０１　コミュニティ組織や人材の育成と組織の活動支援		大事業	01	住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町自治会活動運営等補助金交付要綱美幌町自治会連合会等運営補助金交付要		経費区分	政策的経費		
事業概要	自治会連合会及び単位自治会（67地区）の育成推進や活動しやすい環境整備を図る。					
事業目的	地域コミュニティの活性化や活力ある地域社会を目指して、地域自治会活動の育成推進を図る					
事業の対象	自治会連合会・単位自治会					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 自治会への補助金交付や事業協力及び人的支援を行う 【現状と課題】 補助金により自治会活動をしやすい環境整備が図られている。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	8,721	8,034	8,859	7,442	8,599	8,599
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	3,156	650	661	661	663	663
一般財源	5,565	7,384	8,198	6,781	7,936	7,936
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	8,721	8,034	8,859	7,442	8,599	8,599

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	自治会連合会三役会・理事会開催回数（H31年度まで：町内の全自治会	目標	回	67	15	15	15	
		実績	回	67	17	16		
		達成率	%	100	133	106		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域コミュニティの核となる自治会を支援することは妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	地域コミュニティに関する支援であるため、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自治会での事業については対象者が身近であり波及効果も高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 事業継続のため引き続き各自治会への補助金を交付				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状どおりの事業のため予算額を維持	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	年々自治会加入率が減少しているため、加入促進を図る。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	駐屯地強化充実推進事業	課・グループ名	危機対策課危機対策グループ		
		評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり	予算科目 項	01	総務管理費	
施策(中)	１０　自衛隊美幌駐屯部隊の充実整備	予算科目 目	11	諸費	
施策(小)	０１　美幌駐屯地の充実整備に向けた陳情・要望活動の推進	予算科目 大事業	02	駐屯地強化充実推進事業	
事業期間	終期未定	～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	隊員削減の反対活動並びに新たな部隊・訓練施設誘致のため、防衛省、陸上幕僚監部及び関係代議士に要請活動を実施する。				
事業目的	部隊の充実整備を図る。				
事業の対象	充実整備期成会及び関係協力団体				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 陳情要望活動及び情報収集並びに賃金、旅費及び賄い料 【現状と課題】 令和４年度即応機動連隊へ改編が予定されているため、部隊編成が完結するまでの間の要望等を掌握し、適時な支援が出来るよう調整していく。				
事業進捗度	２　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	6,628	1,055	4,024	1,246	4,502	4,502
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	6,628	1,055	4,024	1,246	4,502	4,502
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	6,628	1,055	4,024	1,246	4,502	4,502

（見込値）

３．評価

指標名		単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1 自衛官数	目標	人	800	800	800	800	800
	実績	人	727	727	760		
	達成率	%	90.88	90.88	95		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌駐屯部隊の充実強化のため、即応機動連隊へ改編されるよう陳情要望活動を実施する必要があることから、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	美幌駐屯部隊の充実強化のため、防衛省及び関係国会議員に対して陳情要望活動を実施する必要があることから、適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	美幌駐屯部隊の充実強化のため、陳情要望活動に必要な経費であることから、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 次期「中期防衛力整備計画」において、第５旅団の機動旅団への改編が見込まれ、美幌駐屯部隊も対象となることから、改編及び増員に向けて積極的な陳情要望活動を実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 即応機動連隊への改編及び増員に向けて、複数回陳情を実施するなど計画的な陳情要望活動を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	即応機動連隊への改編後の装備及び隊員増員に向けた陳情要望活動の検討				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	若者との意見交換事業			課・グループ名	町民活動課広報相談グループ		
				評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	xx		
	施策(中)	１３　町長の重点施策		目	xx		
	施策(小)	０１　若者との意見交換の充実		大事業	xx	若者との意見交換事業	
事業期間	終期未定		～ 令和４年度				
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	若者との「びほろ未来ミーティング」の定例会開催を行う。						
事業目的	若者たちとの定期的な懇談から、意見提言等を政策に汲み上げていく。						
事業の対象	若年層						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 事業に関する問い合わせ等はあったが、コロナ禍でもあり実施には至らなかった。 【現状と課題】 基本的には団体等からの申込により開催を行うこととなるが、本事業の認知度も低く更なるＰＲが必要である。						
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	実施のための制度設計等は完了しているが、実施希望団体から申込がなければ実施されないため。		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	びほろ未来ミーティングの開催回数	目標	回		1	1	1	1
		実績	回		0	0		
		達成率	%		0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	未来を担う若者の声を聞き、まちづくりに反映させることができる。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	実績件数はないが、対象を若者とすることはまちづくりを行ううえで有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	費用は掛かっていないため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 事業開催へ向け、認知度の向上を図るために、広報掲載のほか、ＰＲチラシを作成し、子育て世代が集まる施設に掲示するなどの周知活動を行う。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 予算をかけない方法でＰＲを行っていく。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	若者世代が開催しやすいよう、土日の開催についても検討を行う。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	ボランティア活動支援事業	課・グループ名	社会福祉課民生障がい福祉グループ		
		評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx	
施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	xx	
施策(中)	１３　町長の重点施策		目	xx	
施策(小)	０２　ボランティア活動への支援		大事業	xx	ボランティア活動支援事
事業期間	終期未定	令和３年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	ボランティア人材の発掘と育成を推進するため、社会福祉協議会が実施するボランティアポイント事業を支援する。美幌町ボランティアセンターに登録した個人・団体が、社会福祉協議会で認定した社会活動等に参加・従事した場合ボランティアポイントを付与する。付与されたポイントを景品に交換できる。事務経費の２分の1を補助する。				
事業目的	ボランティア人材の発掘と育成				
事業の対象	町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 登録ボランティア数の増加、参加者層が能力的・年齢的にも大幅に増える 【現状と課題】 恒常的な参加者の確保と制度の周知による新規参加の発掘				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	253	351	351
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	253	351	351
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	253	351	351

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	ボランティア参加人数	目標	人			110	180	180
		実績	人			144		
		達成率	%			130.91		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	今後の地域活動の支え手となるボランティアを発掘・育成するためにも必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	能力・年齢を問わずボランティア登録が可能であり、ポイント制度導入により達成感が出ることでモチベーションも維持される。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	高額な景品でないが、登録者増との成果が出ており、経費は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現在、地域の”ささえ手”となるボランティア・社会活動に参加し、ポイントをためると景品と交換することができるボランティアポイント事業（美幌町社会福祉協議会が実施）の支援を行っている。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 今後のボランティア人材の発掘と育成を推進するためにも、今後も継続して予算措置を行う必要がある。	予算反映額（概　算）	351千円	
今後の改善点	ボランティア人材を育成するなかで、複数の方がボランティア団体に所属している実態が見受けられることから今後、多くのボランティア人材を確保できるよう事業を見直していく必要がある。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地域おこし協力隊事業		課・グループ名	政策課政策統計グループ		
			評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０２　持続可能な行財政システムの確立		項	01	総務管理費
	施策(中)	０４　美幌版総合戦略の着実な推進		目	05	企画費
	施策(小)	０１　美幌版総合戦略の随時見直しによる効果的な実施		大事業	01	政策推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等	地域おこし協力隊推進要綱（平成21年3月31日付け総行応第38号：総務事務次官		経費区分	政策的経費		
事業概要	地域おこし協力隊制度（外部人材活用支援制度）の活用により、地域課題の解決と隊員の定住を図ることで、協力隊・地域（関係諸団体等）・行政の三方よしの取組を推進する。 協力隊の人件費及び活動経費については、それぞれの所管事業において計上し、本事業については総務費（採用費等）について計上する。					
事業目的	地域おこし協力隊員と行政の協働により、外部人材を活用した地域活性化を図る。 また、隊員退任後の定住を図り、期間中のノウハウを活用した、更なる地域活性化を図る。					
事業の対象	地域おこし協力隊員関係部署及び諸団体					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 地域おこし協力隊員の募集、採用及びフォロー、隊員が行う地域協力活動の協議検討及びフォロー　等					
	【現状と課題】 幅広い分野での制度活用（現状は限定的分野での活用にとどまっている）と効果的な制度活用（地域活性化起業人など他制度との併用）					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	3,576	616	1,061	0	660	1,100
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	3,576	616	1,061	0	660	1,100
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	3,576	616	1,061	0	660	1,100

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	隊員の採用人数	目標	人	2	1	1	2	1
		実績	人	1	1	1		
		達成率	%	50	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	国の支援制度の下、外部視点を取り入れた喫緊の地域課題解決を図る取組であり妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	ミッションが特定され分かりやすい一方、報酬水準がそれほど高額ではないため、事業のマネジメントを含めたすべてを任せるこ
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	国の支援制度があるため費用は最小限である一方、マネジメント役である行政職員の負担が大きくなっている傾向もあり、効率性

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 本制度を活用する場合に、目的や制度設計等が適切に設定されているか担当部局と丁寧に協議しながら取り組みを進める。また、他支援制度との併用など先進地事例を常に収集・研究し、本町における取り組みも検討していく。			改善
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 本制度の活用を見込み、現状維持。 （隊員募集に係る経費）	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点		効果的な制度活用方法の調査研究及びマネジメント体制の検討			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	ふるさと寄附金事業		課・グループ名	政策課政策統計グループ		
			評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０２　持続可能な行財政システムの確立		項	01	総務管理費
	施策(中)	０５　健全な財政運営の推進		目	05	企画費
	施策(小)	０２　財政基盤の強化と効率的な財政運営		大事業	01	政策推進事業
事業期間	終期未定		平成２０年度 ～			
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等	「ふるさとを思う　こころが届く　美幌町ふるさと寄附金」取扱要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	ふるさと納税制度を活用した事業推進策として、返礼品雄充実による寄附金額の向上及び取扱事業所の売上向上、更には寄附金を活用した事業（寄附金充当事業）の丁寧な説明と内容充実によって、寄附者に対して、返礼品から寄附金充当事業まで広く町の魅力をＰＲし、更なる美幌町のファンづくり拡大と関係人口創出を図る。 また、令和２年度に整備したふるさと納税特設サイトの更なる充実とポストカードやSNS等を活用した情報発信により、更なる事業推進を図る。					
事業目的	ふるさと寄附金の増収と寄附金活用事業充実による特色ある魅力的なまちづくり					
事業の対象	町外者（ふるさと寄附金対象者）					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 寄附金額・寄附件数ともに増加傾向にあり、ふるさと寄附金を原資とした「チャレンジ枠」創設による庁内募集も実施しており、返礼品から寄附金充当事業まで広く充実させている。 【現状と課題】 安定的な体制づくりと確立（更なる推進を図るためには、行政の体制はもちろん民間事業者（特に中心的役割を担ている美幌観光物産協会）の体制づくり）					
事業進捗度	１　予定を上回る成果があり、良好な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	43,810	92,968	59,900	192,323	150,637	250,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	43,810	87,028	59,900	192,323	150,637	250,000
一般財源	0	5,940	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	43,810	92,968	59,900	192,323	150,637	250,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	寄付件数	目標	件	1,280	1,280	10,000	15,000	15,000
		実績	件	1,951	5,697	15,929		
		達成率	%	152.42	445.08	159.29		
指標2	寄附金額	目標	千円		43,000	60,000	150,000	150,000
		実績	千円	43,810	87,028	192,044		
		達成率	%		202.39	320.07		
指標3	寄附金活用事業の庁内募集枠	目標	千円				10,000	10,000
		実績	千円					
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町の財源確保対策及び町のＰＲを行う上からも妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	特設サイトを核とした各種PRや返礼品の充実により、寄附件数及び寄附額が増加傾向にあり、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	寄附受付から謝礼品の発送までを一括して外部委託し、効率的な事務を実施していることから、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 民間事業者との連携の下、SNSや広告等による情報発信のほか、寄附受領証明書用オリジナル封筒やポストカード配布による特設サイトの認知度向上や返礼品の更なる充実を図りつつ、リピーターを含んだ寄附者確保に取り組み、更なる事業推進を図る。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 特設サイトやSNS、広告等による情報発信や返礼品の充実による寄附者数及び寄付額の増加を見込み、返礼品等の経費増に対応するため、予算を拡充する。	予算反映額（概　算）	90,737千円	
今後の改善点	特設サイトを通じた更なる情報発信及び謝礼品取扱事業者との連携体制の確立。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	広域連携事業		課・グループ名	政策課政策統計グループ	
			評価者名	総務部長　小室　保男	
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02　総務費
	施策(大)	０２　持続可能な行財政システムの確立		項	01　総務管理費
	施策(中)	０９　広域行政の推進		目	05　企画費
	施策(小)	０２　広域連携事務事業の更なる推進		大事業	03　広域連携事業
事業期間	終期未定				
要求区分	継続		町長重点政策	○	
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	地域の活性化、広域的な課題に対する要望事項の調整や近隣市町との相互支援、連携の充実を進める。 また、管内市町村との連携によりオホーツクイメージの発信を推進するとともに、北見地域定住自立圏をはじめとした圏域での業務連携の更なる検討を行う。				
事業目的	広域連携事務・事業の連携及び強化を図ることにより、行政課題の解決や管内市町村などとの振興を図る。				
事業の対象	美幌町、管内市町村の住民及び行政機関。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 管内市町村による協力連携事業の実施。 【現状と課題】 新たな連携や業務拡大の検討が進んでいない。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	1,097	317	394	316	443	393
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	278	0	0	0	0	－
一般財源	819	317	394	316	443	393
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,097	317	394	316	443	393

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	定住自立圏協定に基づく連携事務	目標	件	2		1	1	1
		実績	件			1		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	広域連携による効率的・効果的な行政運営は、持続可能な行政運営のため実施すべきであることから妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	上記同様、関係自治体で事業評価をしながら適切な手段として実施するため、実現すれば有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	上記同様、検討する時間は要するが実現した場合は、効率性も含めて検討しているため、高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 管内及び管外の自治体との広域連携を継続する。			評価結果
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 新規事業等もないため予算についても現状維持。	予算反映額（概　算）	0千円	現状維持
今後の改善点	関係自治体と意見交換を通じた広域連携事業の方向性検討			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	国際交流事業		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
			評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０３　国際・国内交流の推進		項	01	総務管理費
	施策(中)	０１　国際交流の推進		目	05	企画費
	施策(小)	０２　友好姉妹都市を中心とした、地域間交流活動の充実		大事業	05	国際交流事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町ふるさとづくり事業の推進に関する規則		経費区分	政策的経費		
事業概要	国際交流を推進するため、友好姉妹都市ケンブリッジと交流について、毎年ケンブリッジ高校と美幌高校との短期交換留学事業を実施。訪問団の交流についても数年に一度、定期的に実施。					
事業目的	姉妹都市との交流及び児童・生徒の国外交流により、将来のまちづくりに資する人材育成につなげる					
事業の対象	姉妹都市ケンブリッジと美幌の町民及び美幌高校生徒町内の児童・生徒					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 新型コロナウイルスの影響によりケンブリッジ高校と美幌高校との短期交換留学は未実施					
	【現状と課題】 新型コロナウイルスの状況をみて実施を検討する。					
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	新型コロナウイルスの影響により短期交換留学を実施することができなかったため	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	733	2	1,059	0	1,144	1,144
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	733	2	1,059	0	1,144	1,144
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	733	2	1,059	0	1,144	1,144

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	高校生による友好姉妹都市間の交流	目標	人	2	2	2	2	2
		実績	人	2	0	0		
		達成率	%	100	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	人的交流として高校生短期交換留学が実績を重ねており、事業として妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	高校生短期留学については、将来のまちづくりに資する人材育成という点で有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	高校生短期交換留学については、負担額は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き高校生短期交換留学事業を実施する。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 例年どおり２名派遣を行う。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		高校生短期留学事業は、双方が無理をしないで継続できるよう推進していく。 訪問団派遣は、関係者とも協議し計画的な交流事業を検討する。	

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	移住定住促進事業	課・グループ名	政策課政策統計グループ		
		評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０３　国際・国内交流の推進	項	01	総務管理費	
施策(中)	０２　国内交流の推進	目	05	企画費	
施策(小)	０１　観光･物産交流の推進	大事業	01	政策推進事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	町所有及び民間オーナー所有の移住体験住宅（計４棟）を活用した本町の生活体験の推進を図るとともに、都市圏で開催されている移住相談イベントへの参加や移住特設サイトの活用により、広く本町の魅力をＰＲし、移住相談から生活体験、完全移住へと段階的な取組を実施する。 また、事業推進にあたっては、関係部署（商工観光Ｇ、農業センターＧ）や関係団体（ハローワーク、不動産事業者など）との綿密な連携を図る。				
事業目的	移住相談、体験移住を通じた移住者の増加				
事業の対象	移住に関心があるまたは、検討されている方				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 コロナ禍の地方移住はトレンドになっており、移住相談は着実に増えている。 また、特設サイトの露出によるところも移住相談件数が増えている要因であり、更なる事業推進を図る。 【現状と課題】 移住相談体制がほぼ直営であり、人事異動等による安定的サービス提供が課題であり、民間事業者への一部委託も検討事項				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	783	4,702	6,518	18,854	105,770	15,859
国支出金	0	0	0	0	72,302	0
道支出金	0	0	2,300	400	1,200	1,200
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	202	0	3,432	3,163	17,411	0
一般財源	581	4,702	786	15,291	14,857	14,659
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	783	4,702	6,518	18,854	105,770	15,859

（見込額）

３．評価

指標名		単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1 移住相談件数	目標	件		60	70	70	70
	実績	件	60	51	138		
	達成率	%		83			
指標2 移住体験者	目標	組	10	10	5	10	10
	実績	組	10	0	2		
	達成率	%	100	0	40		
指標3 移住相談窓口を通じた移住者	目標	人		3	3	3	5
	実績	人	0	0	7		
	達成率	%	0	0	66		

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	人口減少対策の観点から妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	完全移住いただくための手段としては、段階的に移住相談・体験移住と設定することが手段として適切であり、高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	財政支援も現在は豊富にあり、ある程度の税投資は認められるが、完全移住者数だけで判断した場合の効率性は検討必要あり。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 地域おこし協力隊（移住定住サポーター）の任期が令和3年度で終了したため、更なる事業推進と安定的な体制づくりのため、民間事業者との協働による事業指針を図る。また、移住イベント参加者など現役世代の移住関心度が高まっており、この機を逃さぬよう積極		拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 テレワーク機能を有した移住相談拠点施設の整備及び民間事業者と協働による移住相談体制を構築するため、予算を拡充する。	予算反映額（概　算）：99,252千円	
今後の改善点	民間事業者と連携した移住相談体制の構築及び移住検討者等に対する情報発信の在り方		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	美幌ふるさと会の拡充			課・グループ名	総務課総務グループ		
				評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０３　国際・国内交流の推進		項	xx		
	施策(中)	０４　町長の重点施策		目	xx		
	施策(小)	０１　美幌ふるさと会の拡充		大事業	xx	美幌ふるさと会の拡充	
事業期間	終期未定		～ 令和４年度				
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌に縁のある、縁のあった人達やこれから地域に関わってくれる人達の美幌町に対する想い、貢献しようとする人々の動きを積極的に受け止め、美幌町と積極的なつながりを持つ機会を提供することで関係人口を増やし、美幌ふるさと会を拡充する。						
事業目的	ふるさと会への出席、特産品の提供をはじめとした支援や、情報交換などの相互交流を実施することで、首都圏や札幌圏における町のＰＲ活動基盤や人的ネットワークが構築され、地域課題を解決するとともに、地域活性化や誇りと愛着あるまちづくりにつなげる。						
事業の対象	ふるさと会（東京美幌会、さっぽろ美幌会）						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ふるさと会の総会・懇親会が、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、美幌町との継続的なつながりを持つことの必要性を考慮し、地元の品やふるさと納税のお知らせ等を郵送した。 【現状と課題】 美幌町の関係人口創出のため、新規会員について、広報やＨＰ等で継続的に周知を図っているが、会員数の伸び悩みを抱えており、ふるさと会の活動事業以外の手段も含めて検討する必要がある。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	ふるさと会活動参加者数	目標	人		140	145	150	155
		実績	人	129	0	0		
		達成率	%		0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	R2年度に引き続き、総会・懇親会が中止となったが、美幌町と継続的なつながりを持つ機会を提供できることから、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	「ふるさと応援隊」のような取組で、地域を限定せず、全国から若年層など世代を越えて想いを持つ物とつながる取組が必要。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	総会・懇親会の中止により、地元の品とふるさと納税のお知らせ等を郵送し、一定程度の費用対効果があるため、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 首都圏や札幌圏で開催する美幌町関連イベント当の協力や案内、美幌町との継続的な関わり（参加機会）を提供することで、現在の関係性の継続、美幌町への関心・理解度の深化を図り、新規会員については、広報やＨＰ等で継続的に周知を図り、会員募集に努める。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		美幌町の関係人口創出のため、ふるさと会との関係性を継続し、関係する企業との連携など、その他の手段も含めて、取り進める必要がある。	

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	高齢者交通安全推進事業	課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
		評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０４　地域の安全対策の充実	項	01	総務管理費	
施策(中)	０２　交通安全活動の推進	目	07	交通安全費	
施策(小)	０３　高齢者の交通安全対策の推進	大事業	01	交通安全対策推進事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町高齢者等運転免許自主返納支援事業実施要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	運転に不安のある高齢者等の運転免許証自主返納を奨励し、高齢者等の交通事故防止を推進する。				
事業目的	高齢者等の交通事故防止を推進するため、運転免許の自主返納を奨励する。				
事業の対象	自動車運転免許の65歳以上の自主返納者及び障がい者の自主返納者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 公共交通バス・タクシー利用券の交付				
	【現状と課題】 自主返納は定着してきており、平成31年度以降は社会問題となる重大事故が相次ぎ、免許返納への関心が高まっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	2,800	2,200	2,800	1,700	3,890	3,890
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	2,800	2,200	2,800	1,700	3,840	3,840
一般財源	0	0	0	0	50	50
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	2,800	2,200	2,800	1,700	3,890	3,890

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	免許自主返納	目標	件	120	140	140	160	160
		実績	件	140	110	85		
		達成率	%	116.67	78.57	38.57		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者の事故防止のために町が補助することは妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	高齢運転者やその家族など、高齢者の交通事故を考える機会と交通事故防止に有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自主返納の契機となっており、返納時１回限り助成で適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 助成額を２万円から２万４千円に拡充し、引き続き制度の周知を行い高齢者の自主返納を奨励し、交通事故防止を推進する。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 助成額を拡充したため予算額増。	予算反映額（概　算）	1,090千円	
今後の改善点	高齢者による事故が多発している中、より一層住民への周知を行い制度の利用促進を図る。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	公共交通維持確保改善事業			課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
				評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費	
	施策(大)	０５　公共交通の充実		項	01	総務管理費	
	施策(中)	０１　総合的な公共交通体系の構築		目	06	辺地対策費	
	施策(小)	０１　交通網形成における協議・検討		大事業	01	生活バス路線等維持事業	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	－			
根拠法令等	地域公共交通活性化再生法、道路運送法			経費区分	政策的経費		
事業概要	路線バスや乗合タクシーに対する赤字補てん補助により路線維持を確保する。 北海道全体で北海道鉄道に対する支援を行い路線維持を図る。 美幌町地域公共交通活性化協議会を開催し、地域公共交通計画を策定し、公共交通の充実を図る。						
事業目的	公共交通路線の路線維持						
事業の対象	美幌で路線運行しているバス・タクシー・鉄道事業者、美幌町地域公共交通活性化協議会						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町内路線を運行するバス会社・タクシー会社に補助金交付。美幌町地域公共交通活性化協議会へ地域公共交通計画策定業務に係る負担金支出。 【現状と課題】 国は補助対象経費の上限額等の見直し等、補助制度のあり方を検討することとしている。また、国からは、生産性向上に向けた取り組みを行うよう要請されている。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	25,884	29,974	29,869	43,522	36,408	36,408
国支出金	0	0	0	0	4,800	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	224	0	0	1	－
一般財源	25,884	29,750	29,869	43,522	31,607	36,408
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	25,884	29,974	29,869	43,522	36,408	36,408

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	運行バス路線	目標	本	7	6	6	6	6
		実績	本	7	6	6		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	公共交通の路線を維持することは必要であり妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	公共交通の路線を維持すための補助であり有効
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	国からの補助もあり、経費は適正である

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 地域間幹線系統路線、地域内フィーダー系統路線、町単独補助路線に対し生活バス路線運行維持費補助金を交付。デマンドバス実証運行実験によりバス運行地域の拡大を図り、効率的なバス運行をする。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 デマンドバス導入に伴う実証運行実験を行うことによる増額。	予算反映額（概　算）	6,539千円	
今後の改善点	国・道の補助が安定的に継続されることが路線維持確保の前提のため、国の動向を情報収集する。 利用促進のための取り組みとして、「びほろバス交通マップ」を作成し配布している。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	光ファイバー整備促進事業		課・グループ名	危機対策課危機対策グループ		
			評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx	
	施策(大)	０６　地域の情報化の推進		項	xx	
	施策(中)	０１　情報化の基盤整備		目	xx	
	施策(小)	０１　光ファイバー網の整備促進		大事業	xx	光ファイバー整備促進事
事業期間	終期未定	令和２年度 ～ 令和４年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	民間事業者と協力し、光ファイバー網の整備を進める					
事業目的	光ファイバー網の対象地域を拡大する。					
事業の対象	町内					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 民間事業者の協力を得て光ファイバー網の整備を進めた。また、光ファイバー網を活用した事業についても検討する。 【現状と課題】 民間事業者の協力を得て光ファイバー網の整備を進めた。また、光ファイバー網を活用した事業についても検討する。					
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	事業延期	左の具体的な内容	コロナ感染症拡大による資材不足による工事期間延長	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	410,318	0	410,318	0
国支出金	－	－	203,951	0	203,951	－
道支出金	－	－	0	0	0	－
地方債	－	－	200,900	0	200,900	－
その他	－	－	5,467	0	5,467	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	410,318	0	410,318	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	光ファイバー整備率	目標	%			100	100	100
		実績	%			100		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	光ファイバーを活用した事業の推進は、町をとりまく課題解決に有効であることから妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	関係課にて事業推進の方向性を検討していくため適正である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係課との連携を図ることが重要であることから適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により資材不足となり、一部工事が令和4年度に延長。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 工期延長に伴い繰越で措置	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	光ファイバー網を活用した事業の調査・研究				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	防災訓練事業		課・グループ名	危機対策課危機対策グループ		
			評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０７　防災体制の強化		項	01	総務管理費
	施策(中)	０１　防災体制の充実、強化		目	11	諸費
	施策(小)	０２　備品の整備や訓練による防災意識の向上、体制の強化		大事業	01	防災対策事業
事業期間	終期未定	平成２７年度 ～				
要求区分	継続	町長重点政策　○				
根拠法令等	美幌町地域防災計画	経費区分	政策的経費			
事業概要	美幌町自治会連合会や単位自治会などの地域及び消防や警察などの各関係機関と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施する。 また、美幌駐屯地隊区内２市８町防災担当職員による災害対処研修会を実施し、更なる連携強化を図る。					
事業目的	自助、共助、公助の役割について理解し、災害に対する町民の防災意識の高揚を促し、発災後における被害や混乱を最小限度にとどめる。					
事業の対象	職員、町民、自衛隊、消防、警察、気象台					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 職員、住民、自衛隊、消防、警察、気象台等と連携した避難行動訓練、図上訓練等を行う。 【現状と課題】 地域の特性に合わせた避難行動訓練や図上訓練を開催しているところだが、より多くの町民の参加により、訓練を通じて日頃から避難経路の把握や災害への備えを浸透させる。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	303	41	182	71	380	182
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	200	0
一般財源	303	41	182	71	180	182
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	303	41	182	71	380	182

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	防災訓練実施回数	目標	回	4	4	4	4	4
		実績	回	3	1	2		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域に対し、自助、共助、公助の役割の理解と防災意識の高揚を促すことで、災害時の被害を最小限に抑えるため。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	地域や関係機関と連携して各種訓練を開催することで、災害への備えと、災害が発生した場合における連携強化を図ることができ
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	各種防災訓練を通じ、地域内の連携及び地域の防災意識の高揚を図り、かつ関係機関との連携強化を図る。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 美幌町自治会連合会や単位自治会など地域と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施する。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 ３年に１度の全町総合防災訓練を令和４年度に実施する予定。近年の災害状況を踏まえながら町民のニーズや意識啓発に即した訓練を実施する。	予算反映額（概　算）	198千円	
今後の改善点	全町的な訓練は３年に１度であるが、単位自治会との訓練や図上訓練を通じて、防災意識の向上を図る。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	福祉担い手育成推進事業	課・グループ名	保健福祉課　高齢介護グループ		
		評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	03	民生費	
施策(大)	０１　地域福祉機能の充実	項	01	社会福祉費	
施策(中)	０４　町長の重点施策	目	03	高齢者福祉費	
施策(小)	０１　担い手育成の推進	大事業	01	高齢者福祉推進事業	
事業期間	終期未定	令和２年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	町内の介護人材の確保及び資質の向上と定着の促進を図るため、民間の介護サービス事業所に従事する者に対し、資格取得等に係る経費の一部を補助する。				
事業目的	町内の介護人材の確保及び資質の向上				
事業の対象	町内の介護サービス事業所に従事及び従事予定の資格取得を目指す者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町内の介護従事有資格者の増 【現状と課題】 資格取得の後押しにはなっているも、介護事業所での職員不足は続いている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	523	4,523	1,992	3,513	3,513
国支出金	－	0	0	0	0	0
道支出金	－	0	0	0	0	0
地方債	－	0	0	0	0	0
その他	－	523	4,523	1,992	3,513	3,513
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	523	4,523	1,992	3,513	3,513

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	資格取得助成	目標	人	20	20	20	20	20
		実績	人	19	6	6		
		達成率	%	95	30	30		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町内事業所の介護従事者不足解消のため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	資格取得の後押しとなるものとして、介護従事者から高評価であり、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町内事業所勤務が補助の条件のため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 制度の再周知を行い、介護人材確保のため資格取得への促進を図る。			評価結果
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 事業継続のための予算の確保が必要。	予算反映額（概　算）	0千円	現状維持
今後の改善点	事業効果の把握のため、実際に対象となる人の調査などが必要。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地域福祉活動支援事業	課・グループ名	保健福祉課高齢介護グループ		
		評価者名	民生部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	03	民生費	
施策(大)	０２　高齢者福祉の充実	項	01	社会福祉費	
施策(中)	０２　自立生活の支援	目	03	高齢者福祉費	
施策(小)	０４　生活環境の整備	大事業	01	高齢者福祉推進事業	
事業期間	終期未定	平成２１年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	市街地の自治会単位で活動している「たすけあいチーム」に対し、地域福祉活動補助金を交付し活動の支援を行う。町で全ての高齢者宅等の間口除雪を行うことは不可能であり、「たすけあいチーム」に協力を依頼している。その負担軽減のために、「たすけあいチーム」に家庭用除雪機を貸与する事業を平成21年度から開始している。				
事業目的	たすけあいチームに除雪機を貸与することにより、高齢者宅等の間口除雪作業を支援していく。				
事業の対象	各自治会たすけあいチーム				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町所有の除雪機を貸与し、高齢者世帯への間口除雪を実施。 【現状と課題】 チーム員の高齢化や人員の確保が困難となっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	1,157	1,272	1,421	1,220	1,394	1,394
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	100	100	100	1,000	1,000
一般財源	1,157	1,172	1,321	1,120	394	394
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,157	1,272	1,421	1,220	1,394	1,394

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	除雪機貸与台数	目標	台数	21	21	21	21	21
		実績	台数	21	21	21		
		達成率	%	100	100	100		
指標2	除雪対象世帯数	目標	世帯	140	134	134	134	134
		実績	世帯	134	134	103		
		達成率	%	95.71	100	76.87		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	「たすけあいチーム」への支援は、高齢者等の除雪負担軽減のために不可欠であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	除雪作業の負担軽減のために、小型除雪機の貸与は有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	「たすけあいチーム」のボランティアにより実施されており、経費削減に貢献している。

次年度の取組の方向性・改善内容				
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 高齢者世帯への間口除雪支援は今後も必要であり事業を継続する。			評価結果
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 事業を維持するための予算を確保していく。	予算反映額（概　算）	0千円	現状維持
今後の改善点	除雪機の維持費を安く抑え、長持ちさせるためのメンテナンスが必要。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	在宅福祉サービス支援事業	課・グループ名	保健福祉課高齢介護グループ		
		評価者名	民生部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	03	民生費
施策(大)	０２　高齢者福祉の充実		項	01	社会福祉費
施策(中)	０２　自立生活の支援		目	03	高齢者福祉費
施策(小)	０４　生活環境の整備		大事業	02	在宅福祉事業
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町介護予防・生活支援事業条例	経費区分	政策的経費		
事業概要	在宅での生活に必要な支援を行うことで、高齢者の自立した生活を確保する。 （根拠条例：介護予防・生活支援事業条例） ①特定高齢者訪問介護 ②入浴サービス（訪問・施設入浴）※H26訪問入浴車両の廃止 ③移送サービス ④乗合タクシー無料代替運行 ⑤在宅高齢者等除雪サービス ⑤愛のふれあい訪問 ⑥住宅設備改善事業助成⑦生きがい活動支援⑧短期宿泊利用サービス※H28年度より生きがい活				
事業目的	高齢者等に介護が必要な状態に陥り、さらに悪化しないような介護予防を推進させ、自立した生活を確保することができるよう支援を行う。				
事業の対象	要介護状態となるおそれのある高齢者等				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 要介護状態等となることを予防し、自立した日常生活を営むことに寄与できた。 【現状と課題】 当サービスを必要とする時点で介護認定が必要となっている場合が多く、利用者が極端に少ないサービスの見直しや制度の周知を徹底する必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	3,556	3,054	6,542	3,327	6,672	6,672
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	100	0	0	6,672	6,672
一般財源	3,556	2,954	6,542	3,327	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	3,556	3,054	6,542	3,327	6,672	6,672

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	住宅改修助成件数	目標	件	7	7	7	7	7
		実績	件	2	0	0		
		達成率	%	28.57	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者等の自立した生活を送るための支援であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	自立した生活を確保するための介護サービスに準じた支援等を提供しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	介護報酬単価を基本としており適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 サービスの提供は今後も必要とされており、事業は継続する。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 事業継続のための予算の確保が必要。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	未だに制度を知らない高齢者等が存在しているため、本サービス支援事業について更なる周知が必要。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	子ども発達支援センター運営事業			課・グループ名	社会福祉課発達支援センターグルー		
				評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	03	民生費	
	施策(大)	０３　障がい者福祉の充実		項	02	児童福祉費	
	施策(中)	０３　障がい者福祉施設の整備		目	01	児童福祉総務費	
	施策(小)	０２　子ども発達支援センターの充実		大事業	02	子ども発達支援センター	
事業期間	単年度						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等	児童福祉法			経費区分	投資的経費		
事業概要	美幌町、津別町、大空町を圏域として運営する子ども発達支援センターは、児童福祉法に基づく指定障害児通所支援事業所であり発達の遅れがある又は障がいを有する幼児に対して、個々に合わせた療育を行うとともに関係機関との連携を図り育成を助長する。						
事業目的	心身に遅れや障がいを持つ幼児の発達の支援や保護者の育児不安を解消に導き、積極的に子育てができるよう支援する。						
事業の対象	心身に遅れや障がいを持つ幼児及び子どもの成長、発達に心配のある保護者。						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 幼児の発達に合わせた療育や保護者支援を実施する。 【現状と課題】 発達の遅れがある又は障がいを有する幼児が増加傾向にあり、現体制の指導員では対応が困難になってきている。						
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	人手不足	左の具体的な内容	指導員の不足により、利用者のニーズに対して最低限度のサービスしか提供できていない。		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	16,188	7,085	8,745	8,311	15,553	11,868
国支出金	0	0	0	0	3,119	0
道支出金	924	209	1,461	2,114	1,947	1,947
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	15,179	5,611	7,284	6,197	10,487	9,921
一般財源	85	1,265	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	16,188	7,085	8,745	8,311	15,553	11,868

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	療育に有効な指導回数（週1回程度）の児童数の割合（令和元年度改正）	目標	%	90	90	90	90	90
		実績	%	75	78	81		
		達成率	%	83.3	86.6	90		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町内に担える団体等がないため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	保護者の希望により受け入れしている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	心身に遅れや障がいのある幼児の発達支援や、保護者の育児不安解消となっており、指導員が不足している中で、最大限通所希望者

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 利用者が増加傾向にあることから、職員（指導員）を増員し利用者のニーズに対応する。	拡充
	予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 臨時指導員賃金等　予算反映額（概　算）　6,808千円	
今後の改善点		指導員の不足により、利用者のニーズに対して最低限度のサービスしか提供できていないため、職員（指導員）の増員を図る必要がある。	

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	農福連携推進事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０３　障がい者福祉の充実		項	01	農業費
	施策(中)	０６　町長の重点施策		目	04	農業振興費
	施策(小)	０１　農福連携の推進		大事業	01	農業振興事業
事業期間	単年度	～ 令和４年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等		経費区分	政策的経費			
事業概要	農業と福祉が連携することにより、農作業に係る担い手不足解消と障がい者等の雇用の場の創設が行えるように、農福連携を推進していく。					
事業目的	農業と福祉が互いに必要とする分野で連携を図る。					
事業の対象	農業関係者、福祉関係者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 障がい福祉サービス事業所との連携による、食物残渣を利用した農地用融雪剤の製造販売に向けた検討を行った。 【現状と課題】 実際に農地用融雪剤を製造すること及び使用する生産者の確保					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	597	0	0	0
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	0	0	0	－
一般財源	0	0	597	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	597	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	農福連携の調査研究及び協議回数	目標			6	6	6	6
		実績			0	4		
		達成率	%		0	66.6		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農福連携を推進していくため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	関係機関と連携を図っている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関と連携を図っている段階であるため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 今後も障がい福祉サービス事業所や生産者と連携を深め、農福連携を推進する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行のままで妥当と考える。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	他の障がい福祉サービス事業所や生産者とも連携を深めること。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	次世代育成支援推進事業	課・グループ名	社会福祉課児童支援グループ		
		評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	03	民生費	
施策(大)	０４　子育て支援の充実	項	02	児童福祉費	
施策(中)	０１　次世代育成支援	目	01	児童福祉総務費	
施策(小)	０１　子ども・子育て支援事業の推進	大事業	01	児童福祉事務	
事業期間	単年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	子ども・子育て支援法等	経費区分	政策的経費		
事業概要	子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育てをめぐる現状と課題に対して社会全体による費用負担を行いながら、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」「保育の量的拡大」「地域の子ども・子育て支援の充実」に向けた取組を推進していく。 私立の幼稚園等に対し「給食費補助」を実施する。				
事業目的	安心して子育てができる環境にするため。				
事業の対象	町内に居住の児童及び保護者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 子ども・子育て支援事業計画の推進 【現状と課題】 町立保育園の建替え時期及びその後の運営手法				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	398,540	359,410	348,911	295,076	364,959	364,959
国支出金	118,550	150,214	153,446	143,511	165,154	165,154
道支出金	141,254	102,624	89,742	75,094	91,573	91,573
地方債	60,100	31,200	0	0	0	0
その他	0	0	5,667	7,125	1,000	1,000
一般財源	78,636	75,372	100,056	69,346	107,232	107,232
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	398,540	359,410	348,911	295,076	364,959	364,959

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	協議会開催回数	目標	回	4	2	2	2	2
		実績	回	2	1	2		
		達成率	%	50	50	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子ども・子育て支援事業計画を推進しているため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	必要な協議が実施できている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	国の制度に基づいているため適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現計画及び民間幼稚園の意向を汲んだ事業の推進を図る。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 認定こども園等の適正な運営を図るため、継続して支援する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	町立保育園の今後の在り方を調査・研究する。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	民間保育園利用者補助事業			課・グループ名	社会福祉課児童支援グループ		
				評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	03	民生費	
	施策(大)	０４　子育て支援の充実		項	02	児童福祉費	
	施策(中)	０３　保育園(所)の充実		目	01	児童福祉総務費	
	施策(小)	０３　０歳児保育・休日保育の推進		大事業	01	児童福祉事務	
事業期間	単年度						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	町で実施していない０歳児保育を行っている民間（ＮＰＯ）保育所に対し、０歳～２歳児までの利用者には町保育料との差額を補助し、さらに新たに町が行っている多子軽減についても同様に取り扱うこととして、補助の拡大を図っていく。						
事業目的	保護者の経済的負担の軽減						
事業の対象	民間（ＮＰＯ）保育所に通園する児童の保護者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金の交付を行う。 【現状と課題】 認可外保育所の今後の在り方						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	17,845	14,356	19,958	11,232	19,530	19,530
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	1,000	0	0	0	－
一般財源	17,845	13,356	19,958	11,232	19,530	19,530
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	17,845	14,356	19,958	11,232	19,530	19,530

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	補助対象保育園数	目標	箇所	1	1	1	1	1
		実績	箇所	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町で実施していない０歳児保育を行っており、子育て支援のため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	該当となる保育園は１園のみであり、対象となっている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	保護者の経済的負担の軽減が図られており、多子軽減については町の保育園同様の考え方であるため適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 0～2歳児の保護者の経済的負担軽減のための補助金を交付する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 0～2歳児保護者に対して継続して支援する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	認可外保育所の今後の在り方を調査・研究する。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	プレママサポート等事業	課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ		
		評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	04	衛生費	
施策(大)	０４　子育て支援の充実	予算科目 項	01	保健衛生費	
施策(中)	０６　母子保健の推進	予算科目 目	02	予防費	
施策(小)	０２　経済的支援の充実	予算科目 大事業	03	母子保健事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町妊婦一般健康診査等交通費補助金交付要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	子どもを産もうとする世代や妊産婦および子育て世代の経済的支援のため、不妊治療に係る費用、妊婦健診時等の交通費の助成を行う。				
事業目的	妊産婦や子育てを支援する。				
事業の対象	妊産婦等及び子育て世代の町民。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 交通費および不妊治療費の助成については、申請に対して100%助成できた。若い子育て世代に対する経済的支援として負担軽減につながっている。 【現状と課題】 道の特定不妊治療費助成事業が終了することから、町独自の助成事業を実施するなど検討が必要となる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	2,063	2,172	2,473	2,463	2,473	2,473
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	354	269	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	826	0	200	200	0	0
一般財源	883	1,903	2,273	2,263	2,473	2,473
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	2,063	2,172	2,473	2,463	2,473	2,473

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	妊婦一般健康診査等交通費補助人数	目標	人	102	88	90	90	90
		実績	人	102	88	40		
		達成率	%	100	100	48.9		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	妊産婦期及び子育て世代への経済的支援は少子化対策として必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	目標を上回る実績であり、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	交通費の補助額として適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 子育て世帯の経済的負担を軽減していくため、事業は継続。 令和４年度特定不妊治療の道の助成が終了するため、道助成を受けた治療者に対する助成事業は見直しが必要。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	道の特定不妊治療助成事業が終了するため、今後の支援体制について検討が必要。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	子育て世代包括支援センター運営事業	課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ		
		評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	04	衛生費	
施策(大)	０４　子育て支援の充実	予算科目 項	01	保健衛生費	
施策(中)	０８　町長の重点施策	予算科目 目	02	予防費	
施策(小)	０１　子育ての総合相談センター機能の充実	予算科目 大事業	03	母子保健事業	
事業期間	終期未定	～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	母子保健法　第２２条　児童福祉法第１０条の２	経費区分	政策的経費		
事業概要	妊娠期から子育て期にわたり、切れ目なく包括的な支援を提供するためのマネジメントを行う。 ①妊産婦及び乳幼児の実情把握 ②妊娠・出産・育児に関する各種の相談に応じ、必要な情報の提供・助言・保健指導 ③支援プランの策定 ④保健医療又は福祉の関係機関との連絡調整				
事業目的	安心して子育てできる支援体制の強化				
事業の対象	妊婦及び子育て期の保護者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 全妊婦・乳幼児に対してリーフレットを配布。関係機関との連携会議の実施や、センター機能の周知を行った。 【現状と課題】 子育て支援の総合相談窓口として、関係機関との連携や相談窓口の周知を図っていく。				
事業進捗度	－	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	2,899	169	165	1,063	1,063
国支出金	－	966	169	55	1,063	1,063
道支出金	－	0	0	0	0	0
地方債	－	0	0	0	0	0
その他	－	0	0	0	0	0
一般財源	0	1,933	0	110	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	2,899	169	165	1,063	1,063

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	支援プラン必要者に対する作成率	目標	%		100	100	100	
		実績	%		100	100		
		達成率	%		100	100		
指標2	子育て相談延べ件数（窓口、電話相談）	目標	件				240	240
		実績	件					
		達成率	%					
指標3	今後もこの地域で子育てをしたいと思う人の割合（３歳児健診）	目標	%				95	95
		実績	%					
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子育て世代の総合相談窓口として町民、関係機関にとって重要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	関係機関からの相談では高校生の課題も多く、１８歳までの対象は妥当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	子ども子育て交付金対象であり、購入備品も利用者支援事業に活用できており適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 １８歳までを対象とした総合相談窓口であり、町民、関係機関からの問い合わせ先として、様々な相談に対応している。特に未就学児をもつ家庭や妊婦に対しては、育児不安など保護者に寄り添った支援をしていく。			改善
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 親子健康づくり事業の普及・啓発活動を実施するため拡充。	予算反映額（概　算）	894千円	
今後の改善点	地域全体で子育て支援ができるよう、関係機関とよく連携して保護者に寄り添った支援をしていく。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	保健衛生推進事務	課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ		
		評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	04	衛生費
施策(大)	０５　保健予防対策の推進		項	01	保健衛生費
施策(中)	０１　総合的な保健体制の充実		目	01	保健衛生総務費
施策(小)	０１　健康づくりの推進や保健医療体制の整備充実		大事業	01	保健衛生推進事業
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町保健・医療・福祉ネットワークシステム基本計画を策定し、計画実現のため、保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会を設置し、施策や具体的な取り組みの検討と事業展開を図る。 町保健医療体制の整備充実を図る。				
事業目的	町民が健康で安心して暮らせる町づくりを推進する。				
事業の対象	町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 令和２年から新型コロナウイルス感染予防対策により、講演会の実施はない。委員会は書面開催とし、10期委員として最終任期となる令和４年度は、フレイル予防を目的とした歯科保健対策を実施することとした。 【現状と課題】 委員の設置後30年が経過し、保健・医療・福祉部門の連携が図られた。また民間ボランティアを含めた社会福祉活動も活発に行われるようになり、長生きを楽しむ町づくりとして暮らしを支える仕組みが充実した。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	4,198	13,826	4,247	3,831	4,176	4,072
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,363	1,410	1,283	1,284	1,283	1,283
一般財源	2,835	12,416	2,964	2,547	2,893	2,789
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	4,198	13,826	4,247	3,831	4,176	4,072

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	休日当番医開設割合	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2	保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会の開催回数	目標	回数	4	4	4	2	0
		実績	回数	4	1	0		
		達成率	%	100	25	0		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町民の健康を守るため、継続して医療体制確保を図る。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	医師会との協力のもと、祝祭日の医療体制の確保が図れた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	津別、大空、美幌町の３町で人口比で費用負担しながら体制確保している。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会としての目的達成を評価、見直しを行う。フレイル予防として口腔ケアの推進を図る。 地域医療推進に向け、医療体制の維持・整備に努める。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 令和４年度は現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会としての目的達成を評価し、令和５年度に向けて事業を見直す。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地域包括ケア推進事業	グループ担当名	国保病院　地域医療連携課
		評価者名	事務長　但馬憲司
総合計画 基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり	予算科目 勘項目	病院事業会計
施策(大)	06 地域医療体制の充実		
施策(中)	02 保健・医療・介護・福祉との連携強化		
施策(小)	01 地域包括ケアの推進	大事業	
事業期間	１０年度以上		
要求区分	継続	町長重点政策	○
根拠法令等		経費区分	政策的経費
事業概要	高齢化が進展する中、高齢者を在宅で支援するため、退院後の支援に向け医療ソーシャルワーカーによる相談体制の充実に努める。		
事業目的	在宅医療支援の充実を図る。		
事業の対象	全町民（病院利用患者）・在宅医療を必要とする高齢者		
実施結果・現状と課題	【実施結果】 医療・介護・福祉等の関係する機関と連携調整を図った。 【現状と課題】 核家族化・扶養意識の変化により、処遇困難事例が増加している。また、介護サービス不足により調整が難航し、課題解決に難儀している。		
事業進捗度	２予定通りに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	左の具体的な内容

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度予算(見込)
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
指標1	地域医療連携室相談件数（実人数）	目標	人	960	960	960	960	960
		実績	人	1052	878	852		
		達成率	%	109.6	91.5	88.8		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	入退院調整など相談体制の強化が図られている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	相談体制の強化により医療介護の連携が図られている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	専門職による相談調整が図られ効果的かつ効率的である。

次年度の取組の方向性				評価結果
事業	☐拡充　☑現状維持　☐縮小　☐休止・廃止			現状維持
	専門職による相談支援体制の維持継続に努める。			
予算	☐拡充　☑現状維持　☐縮小　☐皆減			
	現状維持により実施することが適当である。	予算反映額（概　算）	0 千円	
今後の改善点	医療・福祉・介護等、関係各所との協力連携に努める。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	医療従事者就業支援等事業	課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ		
		評価者名	福祉部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	04	衛生費	
施策(大)	０６　地域医療体制の充実	予算科目 項	01	保健衛生費	
施策(中)	０５　医療従事者等の確保対策の推進	予算科目 目	01	保健衛生総務費	
施策(小)	００	予算科目 大事業	01	保健衛生推進事業	
事業期間	終期未定	平成２５年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等	美幌町医療従事者就業支援等補助金要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	医療従事者が、町内の医療機関などに就職した場合に就業支援を行うことで、看護師などの医療従事者不足の解消を図り、安定的な医療を確保する。				
事業目的	医療従事者の新規就業及び定着を促し、もってその不足の解消を図るとともに、本庁の医療の安定的な確保に資することを目的とする。				
事業の対象	町内医療関係施設において新たに常勤雇用として就職する医療従事者（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 住宅の準備に要する費用及び就業に係る費用を補助した。 【現状と課題】 離職者はいるが、その期間本町の医療に従事していただいた事を評価することとする。子育てしやすいまちづくりを通して若い世代の医療従事者が定着するなど、今後も離職者対策を検討していく。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	7,082	6,929	10,000	7,248	9,000	9,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	7,000	6,900	10,000	7,200	9,000	9,000
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	82	29	0	48	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	7,082	6,929	10,000	7,248	9,000	9,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	補助該当者数	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町内医療機関の医療従事者不足を解消するために町が実施することは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	目標を達成しており、適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	医療従事者の不足解消および定着に効果があり、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 医療従事者不足の解消のため事業を継続する。基幹病院として町民にとって重要な役割である町立病院の医療従事者に対する支援も継続する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 医療従事者が不足しているため、今後も予算を現状維持として医療従事者の不足を解消する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	介護従事者不足の課題があり対策が必要となっている。医療従事者、介護従事者ともに整合性をもつつつ、効果的な支援体制の見直しが必要。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	花樹育苗センター管理運営事業		課・グループ名	環境管理課環境衛生グループ		
			評価者名	建設部長　那須　清二		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	04	衛生費
	施策(大)	０７　生活環境保全・緑化活動の推進		項	01	保健衛生費
	施策(中)	０６　花や緑による景観の向上及び緑化の推進		目	04	環境保全推進費
	施策(小)	０１　花による景観づくりの推進		大事業	03	花樹育苗センター管理運
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	－			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	各自治会や公共施設へ配布する花苗の育成を行い、町内の緑化や景観向上を図る。					
事業目的	道路や公園を花いっぱいにする。					
事業の対象	町民					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町内の事業者に花樹育苗センターの管理運営業務を委託し、花の育苗を栽培し、自治会及び公共施設等に無料配布している。 【現状と課題】 安定した花苗づくりができる取り組みが必要である。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	5,100	5,596	5,680	5,632	5,772	5,772
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	1,525	4,000	4,000	0	－
一般財源	5,100	4,071	1,680	1,632	5,772	5,772
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	5,100	5,596	5,680	5,632	5,772	5,772

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	花苗配布	目標	本	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000
		実績	本	88,348	82,933	82,654		
		達成率	%	103.94	97.57	97.24		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	緑の基本計画に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	土づくりから育苗まで民間に委託し、安定した花苗の配布を行っている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	必要最低限の経費で事業を行っている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	安定した花苗づくりができるよう努める。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	白樺並木街道の保全			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０７　生活環境保全・緑化活動の推進		項	xx		
	施策(中)	０９　町長の重点施策		目	xx		
	施策(小)	０１　白樺並木街道の保全		大事業	xx	白樺並木街道の保全	
事業期間	終期未定	～ 令和７年度					
要求区分	継続	町長重点政策	○				
根拠法令等			経費区分	政策的経費			
事業概要	2019年3月、本町のカントリーサインが「美幌峠の眺望」とそこに繋がる白樺並木街道（「ロマンチック街道」）をイメージした内容に一新された。今後は、地域住民に配慮しながら維持管理（枝払い）を行うとともに、カントリサインをイメージした「旧福豊小学校から豊富神社手前の交差点までの直線」を「重点整備区間」（観光資源）として重点的に保全する。						
事業目的	景観美化のため適切な維持管理（枝払い）を行う。						
事業の対象	町民、観光客						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 白樺へナンバリングを行い、白樺の台帳を作成した。台帳を作成したことで開発局及び北海道電力と協議する際に、支障となる白樺の管理を円滑に行うことができるようになった。 【現状と課題】 白樺は国道敷地に植えられているものであり、支障木の対応を開発局及び北海道電力と協議する必要がある。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	ロマンチック街道白樺並木の剪定回数	目標	回数	1	1	1	1	1
		実績	回数	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	景観美化のために維持管理を町で行うことは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	沿線住民から支障木の相談が寄せられており、枝払いでは対応できない白樺が増えてきている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	１年に１回の枝払いは景観美化の為に必要である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状の規模で事業を実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の規模で事業を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	維持管理の役割について開発局と協議する必要がある。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	基幹道路の美化の推進			課・グループ名	環境管理課環境衛生グループ		
				評価者名	建設部長　那須　清二		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０７　生活環境保全・緑化活動の推進		項	xx		
	施策(中)	０９　町長の重点施策		目	xx		
	施策(小)	０２　基幹道路の美化の推進		大事業	xx	基幹道路の美化の推進	
事業期間	終期未定		～ 令和４年度				
要求区分	新規		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	国道や道道などの基幹道路の美化（花壇づくりや清掃活動）を推進する。						
事業目的	基幹道路の生活環境保全と美化の推進						
事業の対象	町民						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 北海道開発局の管理道路を対象として、植栽による緑化推進活動・沿線の美化清掃（「ボランティア・サポート・プログラム」）を行った。令和２年度より、日産自動車前の花苗植栽作業をボランティア募集し、実施している。 【現状と課題】 今後、事業を継続して実施していくため、関係団体（北海道開発局・オホーツク総合振興局・フラワーマスター連絡協議会・自治会連合会環境衛生部会・美幌交通安全母の会・美幌高校など）との協力支援が必要である。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	基幹道路沿線の美化活動（花壇づくりや清掃活動）の実施団体数	目標	団体	1	2	3	3	3
		実績	団体	2	3	3		
		達成率	%	200	150	100		
指標2	ボランティア清掃（ボランティア・サポート・プログラム）の登録団体数	目標	団体	1	1	1	1	1
		実績	団体	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	緑の基本計画に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	関係団体による協力支援により、緑化推進活動・沿線の美化が図られており、妥当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係団体による協力支援により、費用をかけずに事業を行えている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	引き続き関係団体による協力支援を促していく。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	起業家支援事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ	
			評価者名	経済部長　後藤　秀人	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07　商工費
	施策(大)	０１　雇用の拡大、安定		項	01　商工費
	施策(中)	０５　起業や新たな事業化、販路拡大の促進		目	02　商工業振興費
	施策(小)	０２　新規起業者に対する支援制度の充実		大事業	02　商工業活性化促進事業
事業期間	８年度	平成２７年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等	美幌町起業家支援事業補助金交付要綱		経費区分	政策的経費	
事業概要	町内で起業を図る事業者に対し、起業に必要な経費、店舗賃借料等の一部を補助することにより、多様な人材を確保し、地域の新たな雇用を創出するとともにまちのにぎわいを促し、もって地域経済の振興に寄与することを目的とする。				
事業目的	多様な人材の確保、雇用機会の創出。				
事業の対象	起業希望者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 起業に必要な経費、店舗賃借料等の一部の補助をし、６件（林業サービス、自動車整備、動物病院、観光業、フリースクール、農業コンサル）の起業に繋がった。 【現状と課題】 令和２年度までは、事業計画作成時の会議所の関り（指導）が薄かったことから、令和３年度から積極的な関り（指導）をしていることによって、より具体的な創業計画の作成に繋がっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	1,343	4,015	9,000	6,934	7,680	7,500
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	1,300	4,000	8,000	6,900	7,600	7,500
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	43	15	1,000	34	80	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,343	4,015	9,000	6,934	7,680	7,500

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	起業件数	目標	件	2	2	4	5	6
		実績	件	0	2	6		
		達成率	%	0	0	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	雇用の創出は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	制度開始から２２件の実績があり、雇用の創出が図られており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費負担がネックとなる新規起業を促す意味からも、適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 継続して実施する。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現在の成果を維持するため。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		引き続き、会議所と連携し操業を支援していく。	

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	事業継承支援事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０１　雇用の拡大、安定		項	xx		
	施策(中)	０７　町長の重点施策		目	xx		
	施策(小)	０１　事業継承者、第2創業への支援		大事業	xx	事業継承支援事業	
事業期間	終期未定		～ 令和４年度				
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	事業承継を行う前に経営を安定化させる。また、円滑に事業承継が出来るよう支援する。						
事業目的	事業承継を促し事業の継続化、雇用の安定を図る。						
事業の対象	事業経営者、承継者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 R3年度、本制度を活用し1件事業展開している。 【現状と課題】 事業承継については、国・道も積極的に推進している。						
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	事業開始後1件の利用となっている。		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	187	1,500	1,500
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	187	1,500	1,500
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	187	1,500	1,500

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	事業承継支援小規模事業者持続化補助金利用件数	目標	件		0	3	3	3
		実績	件			1		
		達成率	%			33.3		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	後継者不足が問題化され、美幌町の経済の維持・発展に必要不可欠である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	後継者候補がいる比較的早い段階で事業展開が可能な制度であり、国補助の上乗せ補助であることから事業者の負担が軽減されて
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	事業承継の問題意識の啓発に繋がっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 継続して実施する				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 継続して実施する	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	事業承継の問題意識の啓発のため、引き続き継続する。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	チャレンジブース事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ	
				評価者名	経済部長　後藤　秀人	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０１　雇用の拡大、安定		項	01	商工費
	施策(中)	０７　町長の重点施策		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０２　起業家支援の拡充		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	単年度	令和２年度 ～ 令和４年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	まちなかに「チャレンジブース」を設置し、自分の好きな趣味や経歴を生かす「プチ起業」を支援する。					
事業目的	小規模な起業希望者や試験的取り組みを支援することにより、起業を促進するとともに、まちなかの賑わいを創出する。					
事業の対象	起業希望者等					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 BIHOROベースの中で「チャレンジブース」を設定したが、新規起業予定者の参加がなかった。 【現状と課題】 新規プチ起業の出展はなかったが、新商品のテスト販売や昨年度起業者が出店し事業のPRに繋がっているため、引き続き継続したい。					
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	BIHOROベースの中でチャレンジブースを設けているが、利用がなかった。	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	0	0	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	プチ起業、チャレンジブース利用件数	目標			0	0	1	1
		実績			0	0		
		達成率	%		0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	BIHOROベースの場を利用している
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	プチ起業の出店はなかった
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	本事業に関する町の負担はない

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き、BIHOROベースの中で「チャレンジブース」を確保する。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の規模で事業を実施する。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	引き続きチャレンジブースを設け、事業継続する。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	みらい農業センター農家青年配偶者対策事業	課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ		
		評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目 款	06	農林水産業費	
施策(大)	０２　農業の振興	項	01	農業費	
施策(中)	０２　担い手の育成確保と生産性の向上	目	04	農業振興費	
施策(小)	０１　担い手対策及び花嫁対策の推進	大事業	06	みらい農業センター管理	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町農業担い手対策協議会による農業体験実習制度は、農業に興味や関心を持つ女性限定の実習生を積極的に受入し、農業体験を通して農家青年と自然な形で交流の場を設定し、農家青年配偶者対策の成果に繋げる。				
事業目的	農家青年配偶者対策による農業及び農村への理解を向上させ、みらい農業センターの存在価値向上を図る。				
事業の対象	農業体験実習生及び一般町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 農業体験女性実習生の受入は2.事業の評価を参照。 【現状と課題】 農業体験実習生については毎年４人程の実績があり、引き続き募集していく。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	4,075	4,352	4,442	4,158	4,773	4,937
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	1,801	468	1,801	－
一般財源	4,075	4,352	2,641	3,690	2,972	4,937
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	4,075	4,352	4,442	4,158	4,773	4,937

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	体験実習生の受入数	目標	人	4	4	4	4	4
		実績	人	4	4	4		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農家青年配偶者対策はJAとの連携によって事業が継続化されており、事業継続化による成果も得られている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	女性農業体験実習生の受入によって農家青年との交流機会が安定的に設定されている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	実習生と農家青年との成婚実績はH16年からの17年間で13組に達しており、成婚実績は道内随一であることから効率的である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 農家青年配偶者対策については地域巡回や面談を通じて結婚相談員や地域との連携を更に密にして関係者が一体となった取り組み体制の強化を図る。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	農家青年配偶者対策については、結婚相談員や地域との連携を密にして取り組み体制の強化を図るとともに、女性農業実習生を積極的に受入する中で、農家青年との交流の場を設け、成果に繋げていきたい。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	コントラクター推進事業			課・グループ名	農林政策課農政グループ		
				評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０２　農業の振興		項	xx		
	施策(中)	０２　担い手の育成確保と生産性の向上		目	xx		
	施策(小)	０３　コントラクター事業の推進		大事業	xx	コントラクター推進事業	
事業期間	単年度						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	農業従事者の高齢化や担い手不足が進行する中、個別経営を支えるコントラクター事業の導入に向けた取組を推進し、耕起や植え付け、収穫時の労力負担軽減を図る。						
事業目的	農業者の労力負担軽減を図る。						
事業の対象	農業関連事業者、他産業事業者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 関係機関と連携を図り、加工用馬鈴薯の収穫選別に係るコントラクター事業の推進を図った。 【現状と課題】 地域の労働力不足へ対応するため、生産者が求めているコントラクター事業について関係機関と連携をさらに図っていく。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	29,000	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	29,000	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	29,000	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	町内コントラクター事業数	目標	件		2	2	2	2
		実績	件		1	2		
		達成率	%		50	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農作業に係る地域の労働力不足への対応を図るのため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	労働力不足への対応を図るため、2つ目のコントラ事業をＪＡが立ち上げれた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	ＪＡが立ち上げたコントラ事業を支援することで、効果的に運用ができているため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 今後も他の作物などでコントラ事業の導入が検討されている場合は、関係機関と連携の上、取り進めて行く。			現状維持
	予算	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　皆減 コントラ事業の立ち上げに係る補助となっているため、次年度は皆減となる。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	地域の労働力不足へ対応するため、生産者が求めているコントラ事業について関係機関と連携をさらに図っていく。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	新規就農者等支援事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ	
			評価者名	経済部長　後藤　秀人	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01　農業費
	施策(中)	０２　担い手の育成確保と生産性の向上		目	04　農業振興費
	施策(小)	０８　新規就農者支援の推進		大事業	02　新規就農者等支援事業
事業期間	単年度	平成１１年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策　－			
根拠法令等	・美幌町新規就農者等支援事業補助要綱・美幌町農業次世代人材投資資金要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	新規就農者等支援事業補助金交付要綱に基づき、対象となる新規農業従事者や新規就農者に対し、農作業機械の購入や資格取得に係る助成を行い、担い手の確保を図り本町農業の持続的発展を図る。 また、新規就農された方に対し、農業経営が安定するまで最長５年間、農業次世代人材投資資金を交付する。（間接補助事業）				
事業目的	新規就農者や新規農業従事者の定着を促進するため、初期投資費用を軽減することで経営安定を図る				
事業の対象	新規就農者、新規農業従事者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金を活用し、新規就農者や新規農業従事者の定着を図った。 【現状と課題】 今後とも適切な補助金の活用により、担い手の確保を図っていく。				
事業進捗度	１　予定を上回る成果があり、良好な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	3,519	1,441	12,573	12,347	17,112	0
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	750	0	1,500	1,500	1,500	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	1,290	699	4,500	2,329	8,616	－
一般財源	1,479	742	6,573	8,518	6,996	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	3,519	1,441	12,573	12,347	17,112	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	新規就農者及び新規農業従事者数	目標	人	4	4	4	4	
		実績	人	4	3	8		
		達成率	%	100	75	200		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	担い手確保が求められる中、引き続き、支援が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	担い手確保対策として、新規農業者等への支援は、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	担い手確保及び農業経営の安定のため、適切な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 新規就農者、新規農業従事者を支援することにより、担い手の確保に努める。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 新規就農者、新規農業従事者の定着を図る。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	今後とも適切な補助金の活用により、担い手の確保を図っていく。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	みらい農業センター農業振興事業		課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
	施策(中)	０３　新たな農業の展開		目	04	農業振興費
	施策(小)	０１　みらい農業センターによる新規農作物の実証試験		大事業	06	みらい農業センター管理
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	独自性があり、高い有益性が期待できる新規作物や新たな栽培技術を積極的に地域へ提案、普及推進をするために占有農場を活用し、新規作物や新栽培技術の研究・調査を実施することで、本町の基幹産業である農業の更なる発展と新たな展開を図る。					
事業目的	地域農業収益の向上と差別化された個性ある特産品の誕生をめざす。					
事業の対象	新規就農者・一般農業者（後継者含）					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ＪＡ美幌、農業改良普及センター美幌支所、日甜美幌などとの連携により地域基幹作物の新品種、新技術の栽培試験を実施するほか、日本初の11月初旬出荷に成功した伏せ込みアスパラガス栽培の更なる高収益化をめざした独自の栽 【現状と課題】 新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組んでいく。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	10,335	17,575	8,341	7,950	9,788	8,605
国支出金	0	4,800	0	0	0	－
道支出金	0	4,824	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	6,903	6,441	8,341	6,676	9,219	－
一般財源	3,432	1,510	0	1,274	569	8,605
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	10,335	17,575	8,341	7,950	9,788	8,605

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	試験展示圃における栽培試験数	目標	件	14	14	14	14	14
		実績	件	14	14	14		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域特性に合った新規作物や新技術の研究調査は地域事情に精通する地域農業センタ
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は農業者への情報提供、提案を実施していくという共通
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は、最小限の費用で最大の効果をあげており、効率性は極めて高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。				改善
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の成果を維持する中で、高騰する作物栽培用消耗品の増額や、施設内の電柱に係る高圧低圧設備を修繕していく。	予算反映額（概　算）	1,838千円		
今後の改善点	新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	乳用牛振興推進事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
	施策(中)	０５　畜産の振興		目	05	畜産業費
	施策(小)	０１　乳用牛の検定の推進と生産振興		大事業	01	畜産振興事業
事業期間	単年度	平成２年度　～				
要求区分	継続	町長重点政策　－				
根拠法令等	美幌町農林業振興条例、美幌町農林業振興条例施行規則、乳牛検定事業実施要領	経費区分	政策的経費			
事業概要	①乳用牛群総合改良事業　乳用牛の資質向上や乳質向上及び酪農経営の改善を図るため、乳用牛群の総合的な検定事業を推進するため乳牛検定組合による検定員及び研修会の運営費の一部を助成する。 ②乳用種性判別凍結精液助成事業　優良雌牛の牛群整備と搾乳牛の安定確保を図るため、乳用種性判別凍結精液の購入価格の一部を補助する。					
事業目的	①検定を促進することにより、町内の乳用牛群の資質及び収益を向上させる。 ②町内の優良乳用雌牛の増頭及び収益を向上させる。					
事業の対象	乳用牛飼養農家					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ①検定の促進。 ②優秀な後継牛の確保。 【現状と課題】 優良な経産牛を確保するための支援策の検討を行う。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	1,711	1,576	2,000	1,682	2,000	0
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	28	27	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	1,683	1,549	2,000	1,682	2,000	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,711	1,576	2,000	1,682	2,000	0

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	経産牛１頭当たりの乳量	目標	kg	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900
		実績	kg	8,799	8,839	8,980		
		達成率	%	98.87	99.31	100.9		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	乳用牛の資質向上、乳質向上に繋がっている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	乳用牛の資質向上、乳質向上に繋がっており、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関との連携を図ることにより、効率的な運営が図られている。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現行の支援策を継続し、優良な経産牛の確保に努める。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行のままで妥当と考える。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	優良な経産牛を確保するための支援策の検討を行う。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	肉用牛振興推進事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
	施策(中)	０５　畜産の振興		目	05	畜産業費
	施策(小)	０５　肉用牛の生産振興		大事業	01	畜産振興事業
事業期間	単年度	平成９年度 ～				
要求区分	継続	町長重点政策	ー			
根拠法令等	美幌町農林業振興条例、美幌町農林業振興、美幌町優良肉用牛導入推進事業補助	経費区分	政策的経費			
事業概要	優良肉用繁殖牛の導入に対する一部助成を行い、優良な繁殖雌牛群整備により、美幌産和牛の資質向上と市場における優位性を確立し、肉用牛経営の安定と生産者の経営意欲を図る。また、和牛生産改良組合が実施する研修会等へ助成を行う。					
事業目的	優良肉用牛を計画的に導入することにより和牛生産経営の安定化が図られ、本町の和牛の資質向上、市場における優位性が確立される。 また、研修会等が開催され情報交換が行われることにより、生産者の飼養管理の向上が図られる。					
事業の対象	肉用牛生産農家					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 市場から優秀な血統の繁殖雌牛を導入するとともに、飼養する牛の価値向上を図るため研修会を開催する。 【現状と課題】 生産者のニーズに対応した支援策を検弄するため、関係機関と連携を図る。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	1,577	1,577	1,577	1,577	1,577	0
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	1,577	1,577	1,577	1,577	1,577	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,577	1,577	1,577	1,577	1,577	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	十勝市場に対する町内黒毛和牛の価格比	目標	%	100	100	100	100	
		実績	%	101.2	89.8	89.2		
		達成率	%	101.2	89.8	89.2		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	肉用牛の振興に基づく事業であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	優秀な繁殖雌牛の牛群整備ため、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	事業主体への経費の一部助成に努めており、適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 原稿の支援策を継続し、優秀な繁殖雌牛の牛群整備を図る。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行のままで妥当と考える。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	生産者のニーズに対応した支援策を検討するため、関係機関と連携を図る。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	町産材活用促進事業		課・グループ名	農林政策課耕地林務グループ	
			評価者名	経済部長　後藤　秀人	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０３　林業の振興		項	02　林業費
	施策(中)	０２　付加価値の向上		目	01　林業総務費
	施策(小)	０２　FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化		大事業	02　林業推進事業
事業期間	１０年度以上	平成１９年度 ～ 令和５年度			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町産ＦＳＣ森林認証材の利用促進により、森林資源の地産地消の推進・町内経済の活性化・町内住宅の良質な住環境整備、認証材の付加価値向上を図る。				
事業目的	認証材住宅の普及拡大				
事業の対象	町産認証材				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 認証材住宅の建築費補助 【現状と課題】 認証材の確保が難しく、工務店への安定供給が困難となっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	6,677	4,067	8,293	5,110	7,877	7,877
国支出金	2,326	2,556	3,420	774	3,240	3,240
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	572	0	3,822	3,071	0	0
一般財源	3,779	1,511	1,051	1,265	4,637	4,637
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	6,677	4,067	8,293	5,110	7,877	7,877

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	FSC認証材使用量	目標	m3	500	500	500	500	400
		実績	m3	139	78	130		
		達成率	%	27.8	15.6	26		
指標2	木製品に対するFSC認証木材使用量	目標	m3				150	150
		実績	m3					
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域材を利用し木材の地産地を推進するためには木材の付加価値向上と利用促進が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内住宅の住環境整備への視点等取組みは、美幌町産ＦＳＣ森林認証材の成長・発展に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町産材活用促進事業補助金を行うことで適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の計画で進めることが妥当である	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	実態に合った適正な補助単価の設定				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地場産材利用促進事業		課・グループ名	農林政策課耕地林務グループ	
			評価者名	経済部長　後藤　秀人	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０３　林業の振興		項	02　林業費
	施策(中)	０２　付加価値の向上		目	01　林業総務費
	施策(小)	０２　FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化		大事業	02　林業推進事業
事業期間	終期未定	平成２８年度 ～ 令和５年度			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等	美幌町地域材利用推進方針		経費区分	政策的経費	
事業概要	FSC® 森林認証材を使用した木製品の開発を行い、町産材の利用促進及び付加価値向上を図る。				
事業目的	FSC® 森林認証材の利用促進・付加価値向上				
事業の対象	FSC® 森林認証材				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 製品開発 【現状と課題】 ＦＳＣ森林認証材を使用した木製品の開発を行い、安価で安全性を見据えた製品開発を行う必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	167	433	498	498	539	540
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	167	433	498	498	539	540
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	167	433	498	498	539	540

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	FSC認証材を使用した製品開発個数	目標	個	3	4	4	4	4
		実績	個	4	5	2		
		達成率	%	133.33	125	50		
指標2	各種イベントにおける町産FSC認証材のPR実施回数	目標	回	5	5	5	5	5
		実績	回	5	1	1		
		達成率	%	100	20	20		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌町産ＦＳＣ森林認証材を推進するためには、森林認証材を使用した製品開発が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	美幌町産ＦＳＣ森林認証材の木製品への支援等取組みは、ＦＳＣ森林認証の普及や認証材利用促進の発展に繋がるため有効である
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	対象を美幌町産ＦＳＣ森林認証材に絞ることで、一般材と差別化を図ることができ適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き、ＦＳＣ森林認証材の取組を推進し、町内外への普及及び製品開発を行い地場産材利用促進事業を実施する。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 利用推進及び認証製品の付加価値向上のために実施する。	予算反映額（概　算）	41千円	
今後の改善点	町外への効率的なＰＲ方法			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	木質ペレットストーブ購入促進事業		課・グループ名	農林政策課耕地林務グループ	
			評価者名	経済部長　後藤　秀人	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０３　林業の振興		項	02　林業費
	施策(中)	０５　木質バイオマスの普及促進		目	01　林業総務費
	施策(小)	０１　木質の利活用推進		大事業	02　林業推進事業
事業期間	１０年度以上	平成２０年度 ～ 令和５年度			
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町地域新エネルーギービジョン	経費区分	政策的経費		
事業概要	「美幌発低炭素な町づくり」「美幌町新エネルギービジョン」に基づき、化石燃料の代替によるＣｏ２排出削減及び木質バイオマスエネルギー推進のため、木質ペレットストーブの利用促進を図る。				
事業目的	ペレットストーブの普及拡大				
事業の対象	ペレットストーブ				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ペレットストーブ購入費助成 【現状と課題】 脱炭素社会への取組みとしてペレットストーブへの関心は高まっているが、日常の手入れやペレットの保管場所の確保などの負担が普及の妨げとなっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	833	2,433	2,033	813	2,033	2,033
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	800	2,400	2,000	700	2,000	2,000
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	33	33	33	113	33	33
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	833	2,433	2,033	813	2,033	2,033

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	町内木質ペレットストーブ設置累計台数	目標	台	90	100	100	100	100
		実績	台	71	77	79		
		達成率	%	78.89	77	79		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	「低炭素な町づくり」及び「美幌町新エネルギービジョン」に基づく事業であり実施主体は町が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	化石燃料の代替によるＣＯ２排出削減への取組みは、地球温暖化防止の発展に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	木質ペレットストーブ購入補助金を行うことで適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の計画で進めることが適当である	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	各種イベントでのＰＲ（オール電化住宅への設置によるコスト削減、国産ストーブの性能向上）、燃料補助の検討				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	店舗リフォーム促進支援事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０５　商工業の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　経営基盤の強化、経営の近代化		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０３　既存企業の振興促進		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	単年度	平成２７年度 ～ 令和８年度				
要求区分	継続	町長重点政策　○				
根拠法令等	美幌町店舗リフォーム促進支援事業補助金交付要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	経営指導及び店舗のイメージアップに資するリフォームに要する経費の一部を補助することにより、集客力の強化による経営の安定化及び店舗機能の維持又は向上を図るとともに、町内の活性化を促し、もって地域経済の振興に寄与することを目的とする。					
事業目的	集客力の強化による経営の安定化及び店舗機能の維持や向上を図る。					
事業の対象	店舗の経営者および所有者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 経営指導、店舗リフォーム費用を補助した。 【現状と課題】 制度開始時から比較すると利用件数は減少傾向にあるものの、本制度があることから事業者はリフォームに着手しやすく、町内施工業者を活用している。また、制度利用には商工会議所で経営指導を必須としているものの、多くは講					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	13,411	5,261	10,000	6,714	10,000	10,000
国支出金	0	0	8,000	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	13,411	5,261	2,000	6,714	10,000	10,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	13,411	5,261	10,000	6,714	10,000	10,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	店舗リフォーム件数	目標	件	15	10	10	10	10
		実績	件	14	8	10		
		達成率	%	93.33	80	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域経済の振興は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	実績値からも有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	実績値からも有効である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現在の成果を維持するため。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	引き続き、経営指導は個別相談を原則とし、経営改善に繋げていきたい。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	空き店舗活用促進事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０５　商工業の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０２　商店街の魅力向上		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０１　空き店舗の活用促進		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等	美幌町空き店舗活用事業補助金交付要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	中心市街地の空き店舗を活用した事業者への家賃を補助（月額の1/4で上限2万円最長12か月・同額を商工会議所からも補助）する。					
事業目的	空き店舗を活用した事業者への家賃補助を行い、中心市街地の活性化を図る。					
事業の対象	空き店舗を活用した事業者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 平成３０年度以降実績なし 【現状と課題】 中心市街地区域が対象であり、街中の空き店舗であっても区域外では対象とならない。					
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	平成３０年度以降新規実績がない	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	480	0	240	240
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	0	0	480	0	240	240
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	480	0	240	240

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	空き店舗活用件数	目標	件	2	2	2	1	1
		実績	件	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	中心市街地の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	空き店舗の活用に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	商工会議所と同じ補助率であり経費は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現在の成果を維持するため。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	起業家相談の際等に中心市街地への出店を推進していく。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	プレミアム商品券発行事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０５　商工業の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０２　商店街の魅力向上		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０５　スマッピーカード、町内消費拡大事業支援		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等	美幌町労働及び商工振興対策補助金交付要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	消費拡大に伴う町内経済の活性化を目的としてプレミアム商品券を発券し、ポイントカードシステムによる消費者へのサービス提供を行う。					
事業目的	消費拡大に伴う町内経済の活性化。					
事業の対象	ポイントカード会員および登録事業者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 プリペイドチャージによる商品券発行イベントの開催費用を補助した。 【現状と課題】 利用率からも、十分な成果が出ている。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	8,399	19,830	8,400	9,851	8,400	8,400
国支出金	0	0	8,400	0	8,400	－
道支出金	0	2,704	0	1,304	0	－
地方債	8,300	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	99	17,126	0	8,547	0	8,400
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	8,399	19,830	8,400	9,851	8,400	8,400

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	商品券利用率	目標	%	99	99	99	99	99
		実績	%	99.98	99.98	99.98		
		達成率	%	100.99	100.99	100.99		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	商店街の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内での購買力が増しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	利用率からも十分な成果が出ており、適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き実施する。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現在の成果を維持するため。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	各店舗の顧客満足度を高める工夫が必要。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	観光推進事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０６　観光の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　総合的な推進体制、ビジョンの確立		目	03	観光費
	施策(小)	０１　「美幌町観光振興革新戦略（第２次美幌町観光振興計画）		大事業	01	観光振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	近年の観光振興の動向に対応し、さらなる観光入込の増加や美幌の特色を活かした観光振興施策を展開しつつ、各関連団体とも連携を密にして、魅力ある観光地づくりを目指すとともに、多様な方法により情報発信の強化を図る。					
事業目的	美幌町の魅力をさらに知ってもらう。					
事業の対象	観光客					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 平成２８年８月発行、美幌町観光振興革新戦略ビジョンに基づき、町内状況などを把握したうえで、具体的取組の実施に向けて検討を行う。 【現状と課題】 継続した情報発信や体験観光メニューの開発、観光客の町内滞在時間を増やす対策が必要。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	4,414	5,898	10,723	11,359	9,906	9,900
国支出金	0	500	500	500	1,300	500
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,000	1,164	4,197	7,700	3,315	3,315
一般財源	3,414	4,234	6,026	3,159	5,291	6,085
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	4,414	5,898	10,723	11,359	9,906	9,900

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	美幌峠における観光入込客数	目標	万人	73	73	73	70	70
		実績	万人	38.7	38.9	46		
		達成率	%	53.01	53.29	50.96		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	すでに関係団体と役割を分担しながら取り組んでいるため町が実施する事業については妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	観光客へPRするために、協議会に参画して広域で取り組むことは有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	広告などについて随時見直しを実施し適正な事業実施に努めている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 関係団体と連携し現状の計画で進める。				改善
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の規模で事業を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	観光客を街なかへの誘導する仕組み作りが課題である。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	観光団体等連携強化事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０６　観光の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　総合的な推進体制、ビジョンの確立		目	03	観光費
	施策(小)	０２　観光に係る企業、団体との連携強化		大事業	01	観光振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	観光団体（美幌観光物産協会・美幌町観光まちづくり協議会）との連携を強化し、美幌町の特色を活かした魅力ある観光地づくりを実施するとともに、広域的な連携も視野に入れながら観光及び物産の振興を図る。					
事業目的	観光団体と連携し、美幌町観光革新戦略ビジョンを推進する。					
事業の対象	観光団体（美幌観光物産協会・美幌町観光まちづくり協議会）					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 観光団体への補助金・負担金支出					
	【現状と課題】 体験観光メニューや観光を担う人材が不足している。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	12,222	11,555	16,019	15,130	17,919	13,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	2,466	2,000
一般財源	12,222	11,555	16,019	15,130	15,453	11,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	12,222	11,555	16,019	15,130	17,919	13,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	観光物産協会・商工会議所との観光物産振興会議開催回数	目標	回	6	6	6	6	6
		実績	回	2	2	6		
		達成率	%	33.33	33.33	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	観光物産協会及び美幌観光まちづくり協議会に対する運営負担であり、本町の観光振興を図るうえで必要なため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	観光振興を図るために有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	団体に対し一定のルールに基づいた負担を定めており適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 観光物産協会は、平成３１年度からＪＲの乗車券販売を開始し、サイクルツアーなど新規事業が展開されている。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 企業版ふるさと納税を活用した事業を実施するための増	予算反映額（概　算）	1,900千円	
今後の改善点	引き続き各団体と連携し、観光革新戦略ビジョンを推進する。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	宿泊施設誘致推進事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０６　観光の振興		項	xx		
	施策(中)	０３　観光情報の提供、サービスの向上		目	xx		
	施策(小)	０４　宿泊施設の誘致		大事業	xx	宿泊施設誘致推進事業	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	投資的経費		
事業概要	関係団体と連携し、宿泊施設を誘致する。						
事業目的	町内において新規宿泊施設の誘致に努める。						
事業の対象	新規進出業者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 関係団体と連携し、新規進出しやすい環境整備について検討する。 【現状と課題】 宿泊業を営む業者に対し情報提供を行った。						
事業進捗度	１　予定を上回る成果があり、良好な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	宿泊施設事業者との懇談会数	目標				1	3	3
		実績				1		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	町が必要とする規模の宿泊施設に建設に対する補助を検討する。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	現有の宿泊施設に対する公平性が必要。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	町内の宿泊施設が満室で他自治体の宿泊施設を利用していることが多々あり、経済効果を生み出すために誘致が必要。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 企業立地促進条例の制定を行う。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の規模で事業を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	町が必要とする宿泊施設（規模や設備）を精査する必要がある。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	滞在型観光推進事業	課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
		評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目 款	xx		
施策(大)	０６　観光の振興	予算科目 項	xx		
施策(中)	０３　観光情報の提供、サービスの向上	予算科目 目	xx		
施策(小)	０５　滞在型観光の推進	予算科目 大事業	xx	滞在型観光推進事業	
事業期間	終期未定	平成２８年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	関係団体等と連携を図りながら、「滞在型観光」や「滞留型・体験型観光」を推進する。				
事業目的	滞留時間の長い観光メニューにする。				
事業の対象	観光資源				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 関係団体等と連携を図りながら取り組む。 【現状と課題】 観光団体において体験メニューの開発や滞在型観光に取り組んでいる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	4,670	4,144	4,024	14,241	5,000
国支出金	－	－	0	－	0	0
道支出金	－	－	0	－	0	0
地方債	－	－	0	－	0	0
その他	－	－	0	－	6,716	5,000
一般財源	0	4,670	4,144	4,024	7,525	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	4,670	4,144	4,024	14,241	5,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	ツアー参加者数（令和２年度から事業化）	目標			100	200	250	250
		実績			6	109		
		達成率	%		6	54.5		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	新たな観光施策であることからガイド事業者に対し当面支援が必要。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	滞在型観光は町内経済の波及効果も見込まれることから有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	主に企業版ふるさと納税を財源に事業を推進している。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 ガイド事業者が美幌町の観光資源を活用してツアーを実施できるよう備品を整備する。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 ツアーを実施するための車両等を町で購入するための増	予算反映額（概　算）	10,097千円	
今後の改善点	ツアー実施に伴う受入体制の構築が課題である。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	農村ツーリズム推進事業		課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx	
	施策(大)	０６　観光の振興		項	xx	
	施策(中)	０５　町長の重点施策		目	xx	
	施策(小)	０１　農村ツーリズムの推進		大事業	xx	農村ツーリズム推進事業
事業期間	終期未定	平成３１年度 ～				
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等		経費区分	政策的経費			
事業概要	修学旅行生等を対象に農業体験や農村生活の場を提供し、都市農村交流を図る美幌版農村ツーリズム事業を農業者や関係機関と連携しながら展開することで地域農業の魅力発信を強化するとともに新たな農業収益策としての確立を目指す。					
事業目的	美幌版農村ツーリズム事業の展開により、農村地域での交流・滞在等を通じて地域への「認知・関心」を高め、「交流人口」、「関係人口」増加に繋げることで地域経済の活性化を図る。 また、受入体制の充実や受入手法のスキルアップを図るべく受入農家への支援や視察研修等を実施する。					
事業の対象	高校生・一般					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ・日帰り農業体験受入：清風南海学園高等学校（平成28年～令和元年）、大阪高等学校（平成30年） ・農家民泊受入：大阪教育大学附属高等学校（令和元年）　※受入人数は2.事業の評価を参照 【現状と課題】 現在、農家民泊受入に協力する農業者は20戸である。 引き続き受入農家の推進拡大と来町校の誘客を同時進行し、事業の拡大を図る。					
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	中止	左の具体的な内容	新型コロナウイルスの影響により、令和３年度は事業が実施できなかった。	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	388	311	619	619
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	388	311	619	619
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	388	311	619	619

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	日帰り農業体験受入実績	目標	人	50	50	0	50	100
		実績	人	51	0	0		
		達成率	%	102	0	0		
指標2	農家民泊受入実績	目標	人	20	20	0	20	20
		実績	人	20	0	0		
		達成率	%	100	0	0		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	「美幌町観光まちづくり協議会」が令和３年度を持って解散した事により、令和４年度からはみらい農業センターが事務局となり
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	低い	新型コロナウイルスの影響により事業を実施できなかった。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	低い	新型コロナウイルスの影響により事業を実施できなかった。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 修学旅行生等を対象に農業体験や農村生活の場を提供する中で都市農村交流を図り、農業者や関係機関と連携しながら展開することで地域農業の魅力を発信するとともに、新たな農業収益策としての確立を目指す。			改善
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 新型コロナウイルスの状況にもよるが、以前の成果を取り戻す中で、教育旅行説明相談会（大阪等）、物産展出展（大阪市）などの旅費を計上した。	予算反映額（概　算）	308千円	
今後の改善点	新型コロナウイルスの状況にもよるが、受入農家の推進拡大と来町校の誘客を積極的に取り組みしていく。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地域特産品開発推進事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０７　地域特産品の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　地域特産品の開発・育成		目	03	観光費
	施策(小)	０２　地域資源活用型特産品開発への支援強化		大事業	01	観光振興事業
事業期間	終期未定	平成２８年度 ～				
要求区分	新規	町長重点政策　○				
根拠法令等	美幌町地域特産品開発支援事業補助金交付要綱	経費区分	政策的経費			
事業概要	平成２９年度から開始したびほろブランド認証制度と連携し、本町の質の高い農畜産物をはじめ、地域資源を活用した特産品開発を支援し、官民一体となった特産品の開発を支援する。 また、ホームページなどを活用した特産品のＰＲ及び販路拡大の促進を図る。					
事業目的	消費、販路拡大につなげる					
事業の対象	新規特産品開発又は既存特産品を改良する事業者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 新規特産品開発及び既存特産品に取り組む事業者に対し支援を行った。 【現状と課題】 びほろブランドの認証につながっており一定の成果はあるものの、販売実績の追跡が出来ていない。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	1,250	1,482	1,500	1,498	1,500	1,500
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	1,000	1,000	0	－
一般財源	1,250	1,482	500	498	1,500	1,500
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,250	1,482	1,500	1,498	1,500	1,500

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	特産品開発等の支援件数	目標	件	4	4	4	4	4
		実績	件	3	4	3		
		達成率	%	75	100	75		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌町の特産品開発のための支援であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	経費の助成を行うことにより、新たな特産品開発を促す制度であり、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	補助対象経費の３/４で上限を５０万円として定めており、他の自治体等と比較しても経費は妥当である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 制度の周知方法を検討する。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行の補助制度を維持する。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	審査するにあたり、審査項目の見直しや過去に支援した事業者に対し事業効果を検証する必要がある。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	物産関連イベント参加促進事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０７　地域特産品の振興		項	xx		
	施策(中)	０２　地域特産のＰＲ・販売		目	xx		
	施策(小)	０２　物産展･物産関連イベントの参加促進		大事業	xx	物産関連イベント参加促	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌観光物産協会と連携し、町内業者が、各物産関連イベントに参加出来るようにする。						
事業目的	各物産関連イベントに積極的に参加する。						
事業の対象	町内業者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美幌観光物産協会と連携し、物産関連イベントの情報を発信し、イベント参加時の経費を支援した。 【現状と課題】 コロナ対応によりイベントが中止になることが多い。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	イベント参加事業者数	目標	回			1	7	7
		実績	回			2		
		達成率	%			200		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	遠方の人に対して直接賞品をPRすることができるため一定の支援は必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	旅費・配送料を町で支援することでイベントへの参加を促すことに寄与している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	イベントにおける商品の販売だけでなく、地域のPRも行うことができる。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現行の助成制度を継続する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行の規模で事業を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	助成制度を広く周知する方法を検討する。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	会員制度による販売拡大			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　後藤　秀人		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０７　地域特産品の振興		項	xx		
	施策(中)	０３　町長の重点施策		目	xx		
	施策(小)	０２　会員制度による販売拡大		大事業	xx	会員制度による販売拡大	
事業期間	終期未定		～ 令和４年度				
要求区分	新規		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町での加工、生産品の会員制度（美幌ふるさと便）による販売拡大。 ※札幌美幌会、東京美幌会の会員等に呼びかけを行い、加工、生産品の会員制度（美幌ふるさと便）へ登録していただくことから始め、順次拡大していく。						
事業目的	美幌特産品を応援してくれる美幌ファンを会員として集め、販路の拡大を図る。						
事業の対象	町外						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 札幌・東京美幌会の会員限定で「美幌町特産品応援セール」を実施。観光物産協会取扱のカタログを送付して郵送による販売を実施。 【現状と課題】 定期的に美幌の特産品を購入していただける仕組みが必要。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	会員を対象とした販売（セール）の実施回数	目標	回		0	1	1	1
		実績	回		1	1		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	会員が高齢化しており郵送による案内は妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	会員に対して個別で案内している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	商品構成において、利益が出るよう販売価格を設定している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状の規模で事業を実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 観光物産協会の補助事業で実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	マンネリ化しないために販売物品を定期的に見直す必要がある。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	道路舗装整備事業	課・グループ名	環境管理課維持管理グループ		
		評価者名	建設部長　那須　清二		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目	款	08	土木費
施策(大)	０１　道路網の整備		項	02	道路橋梁費
施策(中)	０２　町道の整備		目	03	道路橋梁新設改良費
施策(小)	０３　町道整備、維持補修、道路附帯施設、橋梁補修の計画及び		大事業	01	道路整備事業
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	投資的経費		
事業概要	幹線・地域道路網の新設及び改良工事の継続的実施により、交通の利便性の確保・向上を図る。 舗装整備後年数が経過し、傷みの激しい路線が多いことから、市街地における一部の未舗装ヵ所と併せて整備を行う。				
事業目的	交通環境の確保、向上を図る。				
事業の対象	町道				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 改良工事、オーバーレイ等を実施し、交通の利便性が向上した。 【現状と課題】 町道の舗装整備後年数が経過し、傷みの激しい路線が増えている。				
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	財源不足	左の具体的な内容	改良が必要な箇所の増による財源不足

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	100,790	153,967	155,200	141,053	65,500	211,150
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	100,500	132,600	155,200	140,700	65,500	211,100
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	290	21,367	0	353	0	50
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	100,790	153,967	155,200	141,053	65,500	211,150

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	町道整備延長	目標	m	1,053	785	1,032	225	3,019
		実績	m	1,137	795	112		
		達成率	%	107.98	101.27	10.85		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町道管理者が行うもので、路線の状況に応じて実施している。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	路線の状況に応じて必要な整備を実施している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	入札を行っていることから費用は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 後年度に見送りしている路線もあることから、引き続き実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 実施箇所によっては予算額の増減はあるものの、必要に応じて実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	計画的な道路網の新設及び改良工事に向けた検討				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	除雪対策事業	課・グループ名	環境管理課維持管理グループ		
		評価者名	建設部長　那須　清二		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目	款	08	土木費
施策(大)	０２　除排雪体制の充実		項	02	道路橋梁費
施策(中)	０１　除雪体制の充実		目	02	道路橋梁維持費
施策(小)	０１　除雪計画と除雪体制の随時見直し		大事業	03	除雪対策事業
事業期間	単年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	市街地を11の地区に分け、直営、民間7業者で、郊外地区を5地区、歩道を8ブロックに分けて冬期間の除雪作業を行っている。（除雪延長は市街地区が113km、郊外地区が266km、計379km） また、路面凍結時の砂撒きや堆雪状況に応じた排雪作業を行っている。				
事業目的	冬期間の円滑な交通環境を確保する。				
事業の対象	町道利用者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 降雪状況、堆雪状況に応じて除排雪を実施し、住民生活と安全な道路交通を確保した。 【現状と課題】 直営、民間8業者で実施している。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	88,906	53,135	91,048	111,041	114,226	172,000
国支出金	1,745	1,704	3,600	2,924	3,600	3,600
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	87,161	51,431	87,448	108,117	110,626	168,400
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	88,906	53,135	91,048	111,041	114,226	172,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	一斉除雪実施回数	目標	回	6	5	5	5	6
		実績	回	7	5	9		
		達成率	%	116.67	100	180		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	道路管理者である町が実施すべきである。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	概ね通勤時間帯までに除雪を終えている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	直営・民間と役割分担をし実施している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き、降雪、堆雪状況に応じ除雪事業を実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 降雪状況によって予算額の増減はあるものの、引き続き事業を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	直営及び民間を含めた更なる効果的な除雪体制の検討				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	住宅リフォーム促進補助事業	課・グループ名	建設課建築グループ		
		評価者名	建設部長　那須　清二		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目 款	08	土木費	
施策(大)	０６　住宅環境の整備	項	05	住宅費	
施策(中)	０２　民間住宅･宅地整備の推進	目	01	住宅総務費	
施策(小)	０１　住宅リフォーム制度の充実支援と耐震改修促進	大事業	01	建築事業	
事業期間	３年度	令和２年度　～　令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町住宅リフォーム促進補助金交付要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	住環境の整備と地域経済の活性化を目的に、住宅のリフォーム工事に対し補助金を交付。 50万円以上の工事に対し20%（補助金の上限は50万円） 平成23年度から実施している事業で、令和3年度までの11カ年で1,318件、実績工事費3,124,063千円、429,993千円の補助金を交付。				
事業目的	安全・安心・快適な住環境を整備し、居住満足度の向上を図る				
事業の対象	町内に存する住宅を所有し、現に居住している町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金を交付することで、リフォーム意欲を喚起する。 【現状と課題】 年平均120件の実績があり、今後も年90件程度は需要があるものと見込んでいる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	29,255	23,831	32,670	28,778	32,670	32,670
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	29,200	23,800	32,600	28,700	32,600	32,600
その他	0	0	0	0	70	70
一般財源	55	31	70	78	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	29,255	23,831	32,670	28,778	32,670	32,670

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	住宅リフォーム助成件数	目標	件	130	100	90	90	
		実績	件	90	74	89		
		達成率	%	69.23	74	98.89		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	安全で快適な住環境を確保するとともに、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図る観点から、行政が主体となることが妥当で
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	住環境の整備と地域経済の活性化に貢献しているため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	住宅リフォーム促進補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 住環境の向上と地域経済の活性化に寄与するものと考えており、需要予測に基づき現状維持が妥当と考えるが、事業開始から11年経過していることもあり、制度の再利用や、より利用しやすい制度となるよう制度内容の見直しを検討していく。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 需要予測により件数90件を見込み、補助金額は事業の過去実績から363千円として算出している。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	制度の再利用や、より使用しやすい制度となるよう制度内容について見直しを行う。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	住宅耐震改修補助事業	課・グループ名	建設課建築グループ		
		評価者名	建設部長　那須　清二		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目	款	08	土木費
施策(大)	０６　住宅環境の整備		項	05	住宅費
施策(中)	０２　民間住宅･宅地整備の推進		目	01	住宅総務費
施策(小)	０１　住宅リフォーム制度の充実支援と耐震改修促進		大事業	01	建築事業
事業期間	３年度	令和２年度　～　令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町耐震改修促進計画に基づく美幌町住宅耐震改修補助金交付要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	耐震化を促進し、安全な住環境を確保する。 耐震診断で上部構造評点が1.0未満の住宅を1.0以上となるよう改修する工事に対して補助金を交付。 20万円未満は耐震改修工事に要した額、20万円以上200万円未満は20万円、200万円以上は耐震改修工事に要した額の10%（補助金の上限は30万円）				
事業目的	耐震改修工事を行う事により、耐震性能を向上を目的とする。				
事業の対象	町内に存する旧耐震基準の木造住宅に居住する町民。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金を交付することで、住宅の耐震化の意欲を向上を喚起する。 【現状と課題】 これまでに当該事業の活用は無く、対象となる旧耐震の住宅の減少等も理由の一つに挙げられると考えるが、地震が少ない地域性であることが最大の要因と考える。				
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	当該事業を適用する住宅の申し出が無い。

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	300	0	300	300
国支出金	0	0	75	0	75	75
道支出金	0	0	150	0	150	150
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	75	0	75	75
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	300	0	300	300

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	住宅耐震改修補助件数	目標	件	1	1	1	1	1
		実績	件	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	住宅の耐震化を促進し、安全な住環境を確保する観点から、行政が主体となることが妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	耐震改修促進のために有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	住宅耐震改修補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現在まで実績はないが、美幌町耐震改修促進計画に基づき、住宅施策の一環ととらえ、他の住宅関連補助との併用や補助金額の上積み等も検討し、制度内容の見直しを行う。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現計画で進めることが妥当。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	広報やホームページなどによる情報発信のほか、より使用しやすい制度となるよう制度内容の見直しを行う。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	空き家対策事業	課・グループ名	政策課政策統計グループ		
		評価者名	総務部長　小室　保男		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０６　住宅環境の整備	予算科目 項	01	総務管理費	
施策(中)	０３　空き家対策	予算科目 目	05	企画費	
施策(小)	０１　空家等に関する施策の総合的かつ計画的な実施	予算科目 大事業	01	政策推進事業	
事業期間	終期未定	平成２９年度 ～			
要求区分	新規	町長重点政策	ー		
根拠法令等	空家等対策の推進に関する特別措置法	経費区分	政策的経費		
事業概要	関係団体及び関係部局と連携を図り、適切に管理されていない老朽家屋等の把握を行い、適正な管理を促す。 R3年度予算から新たに除却の補助制度（R3～R5の3年間）を創設し、不良住宅等の除却促進を図るとともに、町独自制度のＰＲパンフレットを作成し、対象者に広く制度周知を図る。				
事業目的	空き家の適正管理				
事業の対象	町内にある老朽家屋（空き家）等				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 除却支援制度創設により、不良住宅等の解消が図られた。 【現状と課題】 空き家の発生抑制、利活用及び不良住宅等の除却促進 民間不動産事業者等との連携体制の構築				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	118	110	5,293	4,720	15,233	5,242
国支出金	0	0	2,500	2,099	7,500	2,500
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	2,000	0
一般財源	118	110	2,793	2,621	5,733	2,742
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	118	110	5,293	4,720	15,233	5,242

（見込額）

３．評価

指標名		単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1 支援制度活用による除却棟数	目標	棟			8	8	8
	実績	棟			6		
	達成率	%			75		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	民間事業者との連携の下、行政が総合窓口として事業を担うことについては、昨今の情勢を勘案しても、妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	個人財産であることから、全てを解決することは困難で有るが、今やるべき手段は概ね実施しており、有効性は普通。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	除却への税投資に対して、固定資産税の減収と捉えると、費用と成果のバランスを評価することは難しいため、検討。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 美幌町空家等対策計画（H30年度策定）に基づいた空き家対策（保全・利活用・除却）の推進をリーフレット等を活用して推進するとともに、空き家の除却及び利活用に対する支援を実施することで、空き家の解消を促進する。		拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 不良住宅等の除却支援制度に加え、空き家の利活用支援制度を実施するため拡充。	予算反映額（概　算）　9,940千円	
今後の改善点	危険住宅の解消に向けた段階的な対策及び空き家利活用方法の検討。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	外部講師活用事業		課・グループ名	学校教育課学校教育グループ		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	01	教育総務費
	施策(中)	０３　小中学校の教育内容の充実		目	03	教育振興費
	施策(小)	０１　地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実		大事業	02	学校教育振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	地域の協力のもと、水泳・スキー・スケート授業において、外部講師によるグループでの個別指導を行い、効果的な授業内容の充実を図る。 また、博物館との連携による体験授業や「総合的な学習の時間」における児童生徒の興味関心に基づいた課題解決型の授業を進める。					
事業目的	地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実を図る。					
事業の対象	児童・生徒					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 各種競技団体からの外部講師や博物館学芸員と連携し「地域とともにある学校づくり」に取り組んだ。 【現状と課題】 外部講師のなり手不足と高齢化等に伴う人材確保が課題である。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	543	404	676	405	678	678
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	300	0	0	0	0
一般財源	543	104	676	405	678	678
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	543	404	676	405	678	678

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	外部講師の派遣	目標	名	32	32	32	19	32
		実績	名	28	21	19		
		達成率	%	87.5	65.62	59.38		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域連携のもと、専門知識・技能を習得することが可能となり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	外部講師による指導は、児童生徒の成長、学校教育の充実につながるため、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費は適正人数及び回数による負担金等となっており、適正な経費と考える。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	年々、外部講師の確保は厳しくなっていることや、水泳協会の指導者の多くが高齢で講師派遣自体が難しいこと等の状況ではあるが、関係団体の理解と協力を得られるように働きかけを行う。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	学校運営改善事業			課・グループ名		学校教育課学校教育グループ	
				評価者名		教育部長　遠藤　明	
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実			項	01	教育総務費
	施策(中)	０３　小中学校の教育内容の充実			目	03	教育振興費
	施策(小)	０４　地域と一体となった学校づくりの推進			大事業	02	学校教育振興事業
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等	学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律			経費区分	政策的経費		
事業概要	学校は、教育活動やその他の学校運営について、地域の教育力を積極的に活用しながら「地域とともにある学校づくり」を推進する必要があることから、学校運営協議会制度を活用し、地域の教育力の向上を図る。 各学校運営協議会の開催を進め、今後は活動内容の深化、小中連携を強化し、学校・地域・家庭の連携を深めていく。						
事業目的	「地域とともにある学校づくり」を推進する。 学校（教育）、地域（協育）、保護者（共育）による３つの教育ネットワークを構築する。						
事業の対象	学校運営協議会委員、地域住民、保護者、教職員						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 各学校運営協議会との情報共有や委員の資質向上を図るため、学校運営協議会連携会を設置した。 【現状と課題】 新型コロナウイルスの影響によりこれまで活発な活動ができなかったため、協議会の役割や協議会自体について地域へ周知することや、各学校における運営協議会の連携及び情報共有を図ることが課題。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	1,755	703	1,220	250	1,220	1,220
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,755	703	1,220	250	1,220	1,220
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,755	703	1,220	250	1,220	1,220

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	学校評議員の委嘱	目標	名	25	0	0	0	0
		実績	名	25	0	0		
		達成率	%	100	0	0		
指標2	学校運営協議会委員の委嘱	目標	名	50	50	56	53	53
		実績	名	55	56	53		
		達成率	%	110	112	94.64		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	学校と地域が目標を共有し、一定の権限を持って学校運営に参画するために、学校運営協議会委員を委嘱することは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	美幌町の子どもを地域で育てる仕組みの構築や、地域の力で児童生徒のさらなる成長が期待できることから、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	費用は、委員の出席報償と外部講師の保険料、活動経費であり、地域活動等を行っていく上で適正と考える。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 地域の子どもは地域で育てる仕組みづくりのため、「３つのきょういく応援団」を活用し、地域に開かれた信頼に応える学校づくりを推進していく。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	学校運営協議会連携会での情報共有等を通じて、各学校運営協議会の課題解決を図る。		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	教育振興事務	課・グループ名	学校教育課総務グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	01	教育総務費
施策(中)	０５　高等学校教育の充実		目	03	教育振興費
施策(小)	０１　間口確保や教育施設・設備の充実		大事業	01	教育振興事業
事業期間	単年度				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	町内唯一の高校である美幌高等学校の魅力ある高校づくりを支え、生徒確保に向けた必要な手立てを図る。また、奨学金貸与制度により経済的理由により修学が困難な者に対して等しく教育機会を与えるための支援を行う。				
事業目的	美幌高等学校の魅力化に対する各種支援を図ることによる生徒の確保。また、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学金を貸与することで教育機会の確保を図る。				
事業の対象	生徒、保護者、美幌高等学校				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美幌町奨学金貸与制度を活用し奨学金を貸与した。また、美幌高校の生徒確保のための高校の魅力を町内外に発信するとともに各種支援策を行った。 【現状と課題】 生徒確保のため各種支援（特に地域みらい留学への参加）の効果により次年度入寮者の増加に繋がったが、女子寮の確保に課題がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	4,785	7,869	13,462	13,455	19,439	19,325
国支出金	0	0	0	0	3,640	3,640
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	4	3	1,965	10,348	2,006	2,006
一般財源	4,781	7,866	11,497	3,107	13,793	13,679
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	4,785	7,869	13,462	13,455	19,439	19,325

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	奨学金貸与者数	目標	名	8	8	8	8	8
		実績	名	5	5	5		
		達成率	%	62.5	62.5	62.5		
指標2	報徳寮入寮者数	目標	名	7	7	6	10	10
		実績	名	7	8	5		
		達成率	%	100	114.29	83.3		
指標3	美幌高等学校入学者数	目標	名			80	80	80
		実績	名			57		
		達成率	%			71.3		

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌町奨学金条例に基づき、教育を受ける機会の確保及び美幌高校の間口を維持するため、町が支援することは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	奨学金については、条例第１０条における選考を行い、報徳寮入寮維持に貢献しているため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	奨学金については、教育を受ける機会の確保、美幌高校については、報徳寮が維持されており、入寮希望者への効果は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 美幌高校の生徒確保のためタブレット端末貸与など学習支援等について拡充を図る。 奨学金制度拡充を図る。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 タブレット端末貸与など学習支援等についての拡充	予算反映額（概　算）	5,977千円	
今後の改善点	生徒確保へ効果的な支援内容を再検討する必要がある。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	小中学校給食費支援事業	課・グループ名	学校給食課学校給食グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実	項	05	保健体育費	
施策(中)	０６　町長の重点施策	目	03	学校給食センター費	
施策(小)	０１　多子世帯への支援	大事業	01	学校給食運営事業	
事業期間	単年度	令和２年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町第3子以降学校給食費補助事業実施要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	多子世帯への子育て支援として、第３子以降の小中学校給食費の無償化を行う。				
事業目的	該当者する保護者から補助申請を受け付け、給食費相当金額を補助する。				
事業の対象	第３子以降の小中学生の給食費を支払している保護者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 対象となる多子世帯の保護者へ補助金を交付。第３子以降の小中学生の給食費が無償化となり子育て支援を図った。 【現状と課題】 令和５年度以降も継続して行うかどうかの判断。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	6,131	7,225	6,792	7,123	0
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	1,056	1,056	0	－
一般財源	0	6,131	6,169	5,736	7,123	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	6,131	7,225	6,792	7,123	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	対象多子世帯が補助金申請を行った割合	目標	%		100	100	100	
		実績	%		100	100		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子育て支援が求められている中、今後とも継続させる必要があり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	対象となる全ての多子世帯へ補助がされており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	対象経費を同居の第３子以降の給食費相当額に限定することで、効率性は高く経費も適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現予算額を維持していくことが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	申請手続きの効率化及び対象者の拡充		

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	語学教育充実事業		課・グループ名	学校教育課学校教育グループ	
			評価者名	教育部長　遠藤　明	
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10　教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	01　教育総務費
	施策(中)	０６　町長の重点施策		目	03　教育振興費
	施策(小)	０３　語学教育の充実		大事業	02　学校教育振興事業
事業期間	終期未定	令和２年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等	学校教育法		経費区分	政策的経費	
事業概要	児童生徒等への語学教育充実のため、校内環境の整備や語学教育専門の教員配置など、語学教育における環境と指導体制の構築を図る。 ●英語の授業以外で学べる環境の創出 ●ネイティブ・スピーカー（ＡＬＴ）の活用による授業改善 ●小学校へ「Englishルーム」の設置。（Ｒ２：美幌小、Ｒ３：東陽小・旭小）				
事業目的	グローバル社会に対応した必要な力を身につけることを目的に、実践的な英語等の語学力育成を推進するため、語学教育の充実と強化を図る。				
事業の対象	地域住民、児童、生徒、教職員、ＡＬＴ				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 外国語の専門教員を配置し、各小学校を巡回指導する体制により、小学校教員の外国語の指導力と英語力の向上が図られた。また、全ての小学校にEnglishルームを開設できたため、語学教育の強化と充実が図られた。 【現状と課題】 新型コロナウイルスの影響により、ＡＬＴが１名来町できなかったため、今後は２名体制を確保する。また、加配要望により配置されている外国語の専門教員についても継続して要望する。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	1,035	2,256	2,060	60	60
国支出金	－	0	0	0	0	0
道支出金	－	0	0	0	0	0
地方債	－	0	0	0	0	0
その他	－	0	0	0	0	0
一般財源	0	1,035	2,256	2,060	60	60
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	1,035	2,256	2,060	60	60

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	専科教諭の配置	目標	人		1	1	1	1
		実績	人		1	1		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	外国語を学ぶための環境が整備され、児童の英語に対する関心が高まっており、指導体制の充実に向けた取組として妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	児童の英語に対する関心が深まっており、極めて有効な手段である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	専科指導教員の配置について、国や道に対し引き続き要望し、適正な配置となるよう進めることは、効率性が高いと考える。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 外国語専門教員の配置し、小学校３校での連携により巡回指導のさらなる充実を図る。また、小学校に設置された「Englishルーム」を活用して、より一層の語学教育の充実を図る。			改善
予算	○　拡充　○　現状維持　●　縮小　○　皆減 全ての小学校にEnglishルームを開設できたことによる予算額の縮小	予算反映額（概　算）	△2,000千円	
今後の改善点	ＡＬＴ２名体制の確保と、外国語の専門教員の配置を取り進める。			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	高校生食育推進事業	課・グループ名	学校給食課学校給食グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実	項	05	保健体育費	
施策(中)	０６　町長の重点施策	目	03	学校給食センター費	
施策(小)	０４　高校における食育の推進	大事業	01	学校給食運営事業	
事業期間	３年度	令和２年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌高等学校が生産した小麦を使用して商品化された「美高うどん」又は「美高らーめん」を、美幌高等学校の生徒自身に食してもらう食育を目的とするとともに、町内唯一の高等学校となった美幌高校の魅力ある高校づくりを支え、生徒確保に向けた施策として実施する。				
事業目的	美幌高等学校へ、学期毎に１回、年３回給食を提供する。				
事業の対象	美幌高等学校の生徒				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美高らーめんを給食として提供し生徒達の食育を推進した。コロナ禍により提供回数は１回となった。 【現状と課題】 今後、生徒数減少により小麦の生産継続が不透明でもあること、さらに収穫から製造が毎年秋以降となるため提供できる期間が限定され日程確保が困難となっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	300	58	214	0
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	100	58	0	－
一般財源	0	0	200	0	214	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	300	58	214	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	美幌高等学校の生徒への給食の提供回数	目標	回		4	3	3	
		実績	回		0	1		
		達成率	%		0	33.33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	自ら育てた小麦を活用し給食として提供する事業であり、効果的な食育推進であることから妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	農業科の特色を生かす事業でもあり、魅力ある高校づくりとして有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	小中学校の給食提供日に合わせて実施しているため効率的であり、商品のＰＲにもなるため成果は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現予算額を維持することが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	原材料の収穫、製造を考慮すると提供回数（年３回）の見直しが必要。さらに地元農産物や加工品も加えた新たな献立の提供なども今後検討が必要である。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	読書習慣推進事業		課・グループ名	図書館課図書館グループ		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０２　生涯学習の充実		項	04	社会教育費
	施策(中)	０４　図書館、読書活動の充実		目	05	図書館費
	施策(小)	０４　子どもの読書活動の推進、読書習慣の形成		大事業	03	図書館活動促進事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	小学校、保育園での読み聞かせボランティア団体を支援すると共に新たなボランティアの発掘養成のための講座を行う。また、「子ども未来絵本０３６事業」として幼少期からの読書習慣の推進と豊かな情操を育むことを目的として、ブックスタート事業（０歳対象）、ブックセカンド事業（３歳対象）、ブックサード事業（６歳対象）を継続していく。					
事業目的	図書館ボランティアの育成及び活動支援 子どもの読書活動の促進及び読書習慣の形成					
事業の対象	図書館ボランティア、町内の０・３・６歳児					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ボランティアサークルの活動支援及び養成講座等の開催。 絵本・アドバイス集の配布（子ども未来絵本０３６事業）、読み聞かせの方法の説明等を行い、読み聞かせ事業を実 【現状と課題】 ボランティアの担い手育成					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	718	737	937	576	786	1,142
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	500	0	200	200	600	600
一般財源	218	737	737	376	186	542
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	718	737	937	576	786	1,142

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	配布人数	目標	人	410	410	350	295	295
		実績	人	342	339	201		
		達成率	%	83.41	82.68	57.43		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	全体の貸出冊数は増えていないが、絵本の貸出冊数は増加しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	支援ボランティアや関係団体の協力を得て実施している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	現在の活動について職員だけでは対応が困難なため、ボランティアの支援が必要不可欠だが、ボランティアの後継者不足が大きな課題となっているため、今後人材確保を図っていく。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	博物館活動推進事業	課・グループ名	博物館課博物館グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０２　生涯学習の充実	予算科目 項	04	社会教育費	
施策(中)	０５　博物館の充実	予算科目 目	06	博物館費	
施策(小)	０１　学校教育との連携の充実	予算科目 大事業	02	博物館活動推進事業	
事業期間	単年度				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	博物館法	経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町の自然や歴史、芸術を後世に伝えていくため、調査研究・資料収集を行い、収集した資料は適切に管理・保管する。また、これら資料を活用した、各種講座や特別展・企画展・ロビー展等の展示会を実施し、ふるさとの自然や歴史、芸術等ついて町民に広く紹介する。さらに、学校教育と連携した体験学習を積極的に進め、児童・生徒の知的好奇心の向上を目指す。また、博物館講座やプチ工房、学校教育との連携事業等において、講師や協力員の支援を図り、内容を充実させる。				
事業目的	美幌町の歴史・文化を後世に伝える。 美幌町の自然や歴史、芸術等について認識を広げ、郷土愛を醸成する。				
事業の対象	一般町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 自然や歴史、芸術などに関する資料を収集した。これら資料を用いて展示や各種講座を開催。加えて学校教育と連携した体験授業の実践した。 【現状と課題】 収蔵品を適切に保管する場所が不足していることから、新規収蔵スペースが必要になっている。博物館利用者は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で減少した。コロナ収束に備え、利用者増を図る。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	9,198	13,125	8,883	7,951	9,060	9,800
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	4,580	0	0	2,000	－
一般財源	9,198	8,545	8,883	7,951	7,060	9,800
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	9,198	13,125	8,883	7,951	9,060	9,800

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	講座教室等	目標	回	140	140	140	140	140
		実績	回	115	151	103		
		達成率	%	82.14	107.86	56.43		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	ふるさとの自然、歴史、芸術等の貴重さ・面白さを、多くの町民に理解してもらい、興味を抱いてもらうためには、不可欠。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	講座教室等の充実を図ることは、目標達成のため、非常に有効な手段である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	類似事業を整理（統合・廃止）したりすることで、経費の効率化を図っている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが妥当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが妥当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	講座教室は今後も充実させる。また、教育旅行や企業研修の受け入れなどを充実させるため、課や組織を越えて連携を図っていく必要がある。				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	多文化共生推進事業		課・グループ名	社会教育課社会教育グループ	
			評価者名	教育部長　遠藤　明	
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10　教育費
	施策(大)	０２　生涯学習の充実		項	04　社会教育費
	施策(中)	０６　町長の重点施策		目	02　社会教育振興費
	施策(小)	０１　外国人労働者等に対する教育機会の推進		大事業	03　成人教育事業
事業期間	終期未定	令和２年度　～　令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	町内に在住する外国人労働者等に日本文化や教養を学べる機会提供して、日本や美幌町の理解を深める。 事業開始年度　令和2年度 対象事業所　4事業所（JAびほろ・クレードル食品・梅高組・一戸農場） 【投資的経費】 【町長重点施策】				
事業目的	外国人労働者が単に労働だけではなく、美幌町で日本文化や教養に触れてもらい、美幌町に愛着を持って就労・滞在できるような生涯学習の機会を提供しながら支援を行う				
事業の対象	町内在住の外国人				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 外国人実習生が所属する企業と連携して、講座を設定し外国人実習生に日本文化への理解を深めてもらう予定。 【現状と課題】 企画実施の窓口として調整を図り、実施に向け取り進めている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	40	187	31	190	200
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	0	0	100	－
一般財源	0	40	187	31	90	200
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	40	187	31	190	200

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	実施回数	目標	事業		2	3	4	
		実績	事業		1	1		
		達成率	%		50	33.3		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	事業所においては通常業務の合間で本事業の準備等を行うことは困難であり、連絡調整等の業務を町が行うことは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	対象が外国人技能実習生に限定されていること、また日本文化等の体験に事業内容を絞っていることからも有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町内在住者に協力・指導を依頼するケースがほとんどであり、最小限の経費で事業実施ができていることから効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 町長重点施策としての取組ではあるが、令和4年度に策定した第8次美幌町社会教育中期計画において多文化共生に関連する推進目標が盛り込まれたことや外国人技能実習生受入の事業所が拡大傾向にあることから、次年度以降も引き続き現状の取組を継続したい。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 対象事業所数は増となるが引き続き町内講師の活用による経費の節減等に努め、事業費総額は現状維持により事業実施を取り進めたい。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	外国人技能実習生の転出入に伴う情報収集、日本文化以外の体験分野拡大（日本語学習等）			

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	ふるさと人材パートナーシップ事業	課・グループ名	社会教育課社会教育グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０２　生涯学習の充実	項	04	社会教育費	
施策(中)	０６　町長の重点施策	目	02	社会教育振興費	
施策(小)	０２　美幌に関わる人材を活用した教育の推進	大事業	03	成人教育事業	
事業期間	３年度	令和２年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	有能な人材と町が関わりを継続していけるよう、美幌町に関わる芸術家やアスリートなどの人材活用による生涯学習に活かす。				
事業目的	人材活用のために情報収集を行いそれをリスト化し、町民が望む生涯学習の場に多様な人材から指導を受ける				
事業の対象	一般町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 人材のリストアップ（政策課にて実施）を行い、人材活用等の相談があった際に活用につなげていく。 【現状と課題】 担当部局で連携を図り、人材リストアップ、その後の学習活用を工夫しながら継続を目指す。				
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、事業展開が難しい状況。

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	0	216	0	216	216
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	0	0	0	－
一般財源	0	0	216	0	216	216
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	216	0	216	216

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	名簿作成(更新)	目標	回		1	1	1	
		実績	回		1	1		
		達成率	%		100	100		
指標2	学習活用の実施回数	目標	回		1	1	1	
		実績	回		0	0		
		達成率	%		0	0		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	本町関係者の実践や経験を還元してもらい、町民が刺激を受けたり夢や希望を持つ機会の提供は町としての実施が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	存事業での活用の他学校の授業の一環として取り組み、子どもたちから高齢者まで本事業の対象とすることが効果的である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	現行事業費で実施可能な範囲で取り組み、より質の高い内容を提供することが最も効率的であると判断している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持であるが、次年度以降の取組をどのように進めていくか手法も含めて検討が必要。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 既存事業・講座等との合同開催も視野に入れつつ、現状維持による事業実施としたい。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	事業の取り進め方、対象となる著名人等の範囲				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	スポーツ団体育成助成事業		課・グループ名	スポーツ振興課スポーツ振興グルー		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０５　スポーツの振興		項	05	保健体育費
	施策(中)	０１　生涯スポーツの振興		目	01	保健体育総務費
	施策(小)	０１　スポーツ振興の充実		大事業	01	スポーツ推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	－			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	本町のスポーツ振興のためにスポーツ協会、スポーツクラブBeet等関係団体への支援を行う。また、本町で開催されるスポーツ合宿に対する補助を行い、スポーツ団体の競技力の向上を図る。					
事業目的	団体の自立運営、強化及び合宿による競技力向上、町内経済への効果。					
事業の対象	スポーツ団体					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 団体との連絡調整、情報の共有。 【現状と課題】 青少年の優秀な活躍や活動を支えるため、選手・指導者における大会参加への負担を軽減すること。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	7,523	2,344	3,695	1,925	4,934	0
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	400	0	0	0	0	－
一般財源	7,123	2,344	3,695	1,925	4,934	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	7,523	2,344	3,695	1,925	4,934	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	補助団体数	目標	団体			3	3	3
		実績	団体		3	3		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	スポーツ活動を普及・振興を図るためには、各種スポーツ団体との連携・支援が不可欠であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	スポーツ団体の育成支援は、青少年の健全育成とスポーツ活動の活性化に繋がることから有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町(教育委員会)及びスポーツ団体と連携し行うことにより適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 スポーツ団体の活動を維持継続するため補助事業を継続する。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状どおりに事業を推進するための予算を維持する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	指導者資格取得補助事業の活用拡大				

令和３年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	未来のアスリート応援事業		課・グループ名	スポーツ振興課スポーツ振興グルー		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０５　スポーツの振興		項	05	保健体育費
	施策(中)	０３　スポーツ活動の促進		目	01	保健体育総務費
	施策(小)	０２　競技スポーツの技術力向上		大事業	03	未来のアスリート応援事
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	－			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	2020東京オリンピック・パラリンピックを契機として、本町の更なるスポーツ振興のため頑張る未来のアスリートを応援することにより、地域愛の醸成や町民満足度の向上に寄与するとともに、競技力向上とスポーツ振興を図る。					
事業目的	競技力の向上及びスポーツ振興。					
事業の対象	町民					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 【現状と課題】 青少年の優秀な活躍や活動を支えるため、選手・指導者における活動への負担を軽減すること。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	平成31年度決算	令和02年度決算	令和03年度予算	令和03年度決算	令和04年度予算	令和05年度予算
事業費（千円）	0	5,746	9,318	5,097	6,600	0
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	4,388	7,600	4,597	1,000	－
一般財源	0	1,358	1,718	500	5,600	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	5,746	9,318	5,097	6,600	0

（見込額）

３．評価

指標名			単位	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
指標1	全国・全道大会等派遣補助団体数	目標	団体	25	25	25	25	
		実績	団体	19	7	17		
		達成率	%	76	28	68		
指標2	育成強化奨励金補助件数	目標	人		19	19	19	
		実績	人		12	19		
		達成率	%		63.16	100		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	未来のアスリートを経済的な側面から支援する必要がある。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	経済的な側面から支援することにより、競技への意欲と競技力の向上に繋がる。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町が行うことにより、公平で適正な経費となる。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 未来のアスリートを育成するための経済的な支援を継続する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行制度を推進するため事業予算を維持する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	強化指定区分等の見直しを図るため、美幌町育成強化選手奨励金交付要綱を改正する。				